

建築工事特記仕様書

令和 7 年 4 月版

千葉市都市局建築部営繕課

建築工事特記仕様書（令和7年4月版）

I 工事概要

- 1 工事名称：幕張新都心若葉住宅地区小学校（仮称）プール新築工事
- 2 工事場所：千葉市美浜区若葉3丁目1番26
- 3 敷地面積：18,313.73㎡
- 4 構造規模：建築面積： ㎡、延床面積： ㎡

棟名称	構造	階数	建築面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	消防法施行令 別表第一	防火対象物
プール附属棟	鉄筋コンクリート造	1	164.00	164.00	(7)項	<input checked="" type="checkbox"/> 特定 <input type="checkbox"/> 非特定
屋外倉庫棟	鉄骨	1	66.00	66.00	(7)項	<input type="checkbox"/> 特定 <input checked="" type="checkbox"/> 非特定
						<input type="checkbox"/> 特定 <input type="checkbox"/> 非特定
						<input type="checkbox"/> 特定 <input type="checkbox"/> 非特定
						<input type="checkbox"/> 特定 <input type="checkbox"/> 非特定
						<input type="checkbox"/> 特定 <input type="checkbox"/> 非特定
						<input type="checkbox"/> 特定 <input type="checkbox"/> 非特定

- 5 別途工事：プール新築杭打工事、プール新築給排水設備工事、植栽工事、芝生広場整備工事
・他工事との取合いは別図による。
- 6 その他：

II 工事仕様

1 共通仕様

特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の
「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下「建標」という。）、
「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和4年版）」（以下「電標」という。）、
「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和4年版）」（以下「機標」という。）、
「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下「建改標」という。）、
「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和4年版）」（以下「電改標」という。）、
「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和4年版）」（以下「機改標」という。）、
「建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）・同解説（令和5年版）」（以下「解共」という）
「公共建築木造工事標準仕様書（令和4年版）（以下「木仕」という）
による。

2 特記仕様

- (1) 一般共通事項（全工事共通事項）の項目は全て適用する。
- (2) 一般共通事項（選択事項）の項目は、番号に□印の付いたものを適用する。
- (3) 特記事項は、原則すべて適用する。「・」は、□印の付いたものを適用する。
- (4) 項目下部に記載の（ ）内の表示番号は、共通仕様の該当項目又は当該図表を示す。
- (5) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（ ）内は製品名を示す。
- (6) 図印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」の特定調達品目を示す。

3 適用基準等

- | | | |
|--------------------------------|---------|----------------|
| (1) 「建築工事標準詳細図」 | (令和4年版) | 国土交通省大臣官房官庁営繕部 |
| (2) 「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）」 | (令和4年版) | 国土交通省大臣官房官庁営繕部 |
| (3) 「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）」 | (令和4年版) | 国土交通省大臣官房官庁営繕部 |
| (4) 「営繕工事写真撮影要領」 | (令和3年版) | 国土交通省大臣官房官庁営繕部 |
| (5) 「工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編」 | | 国土交通省大臣官房官庁営繕部 |
| (6) 「工事写真撮影ガイドブック電気設備工事編」 | | 国土交通省大臣官房官庁営繕部 |
| (7) 「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編」 | | 国土交通省大臣官房官庁営繕部 |

項 目	特 記 事 項
1 一般共通事項（全工事共通事項）	
1 工事实績情報の登録 （建標、電標、機標 1.1.4）	請負金額 500 万円以上の工事については、受注、変更及び竣工登録を行う。
2 施工体制台帳 （建標、電標、機標 1.1.5）	施工体制台帳、作業員名簿及び施工体系図の作成等については、千葉市の「下請負の適正化に関する指導指針」に従って行い、写しを監督職員に提出する。
3 環境への配慮 （建標、電標、機標 1.4.1）	<p>（1）本工事に使用する建物内部の建築材料は、揮発性有機化合物の放散が極めて少ないものとする。 また、ホルムアルデヒド発散建築材料については、F☆☆☆☆使用を原則とし、該当する材料がない場合は安全データシート等の安全性を確認できる資料を提出し、監督員の承諾を得ること。</p> <p>（2）千葉市グリーン購入推進方針に基づき、環境負荷を低減できる機材の選定に努める。 公共工事（資材、建設機械、設備、目的物、工法）</p>
4 工事関係図書	工事関係図書は、工事中、監督職員から請求があったときは、速やかに提出できるようにするとともに、完成時には、工事関係図書一式を監督職員に提出すること。
5 工事の保険	<p>（1）受注者は工事のすべての物件に対して、工事目的物に相当する妥当な金額の火災保険・建設工事保険等に参加し、契約書の写しを監督職員に提出する。 なお、原則として保険加入期間は、工事着手日から工事目的物の引き渡しまでとする。</p> <p>（2）本工事において、受注者は公共工事等に従事する者の業務上の負傷等に対する補償に必要な金額を担保するための保険契約（法定外の労災保険）に附さなければならない。</p>
6 公共工事の実施に伴う環境負荷の低減	<p>千葉市役所環境方針に従い、公共工事の実施に伴う環境負荷の低減として取り組む項目は下記のとおりとし、可能な範囲で環境配慮に努めること。</p> <p>（1）資材・廃土運搬時の環境配慮 （2）工事実施時の騒音・振動の低減への配慮 （3）基礎工事実施時の地下水汚染及び土壌汚染防止への配慮 （4）建設副産物の発生抑制及び再利用の推進</p>
7 施工中現場への安全パトロールについて	<p>工事期間中に、千葉市建設工事安全対策委員会設置要綱、千葉市建設工事安全対策委員会運営要領及び建築部事故防止巡回班規約に基づく、建築部事故防止巡回班の安全パトロールが実施される場合又はその他臨時に安全パトロールが実施される場合は、当該パトロールに協力し、危険箇所及び作業等の改善すべき事項が指摘された場合は、速やかに改善を図るものとする。</p> <p>施工にあたっては、千葉市建設工事等安全対策委員会建築部会が定める「安全対策重点項目」について留意し、工事故の防止を図らなければならない。</p> <p>なお、別途監督職員が指示する「安全対策重点項目」について、工事関係者が見やすい場所に掲示するものとする。</p>
8 安全訓練等の実施	「建築工事安全施工技術指針」及び「公共工事の発注における工事安全対策要綱」に従い、工事の安全確保に努めるとともに、工事着手後、原則として作業員全員の参加により月当たり半日以上時間を割当て、安全訓練等を実施し、その実施状況を記録した資料を整備・保管し、監督職員の請求があった場合は、直ちに提示できる体制とすること。
9 低入札価格工事に おける下請負人のし わ寄せ防止	<p>低入札価格調査制度対象工事において、元請負人と一次下請負人の間で交わされる下請契約について、建設業法に基づく契約であることを確認するため、「下請契約の適正化に関する点検表」に基づき、元請負人、一次下請負人別に点検を行うものとする。点検は、一次下請工事の施工前及び施工後の段階ごとで、一次下請負人 1 者につき、各 1 回行う。点検結果についてはその都度監督職員へ提出するものとする。</p> <p>なお、元請負人、一次下請負人の記載事項に相違があった場合は、監督職員、元請負人の現場代理人、一次下請負人の主任技術者の出席による記載内容の聴取を実施するものとする。</p>
10 総合評価落札方式 による技術提案等	<p>総合評価落札方式による工事において、技術提案書の取り扱いは下記による。</p> <p>（1）技術提案に基づく施工 受注者は、入札時に提示した技術提案等に基づき確実に施工するものとし、技術提案等による契約金額の変更は、行わないものとする。</p> <p>（2）技術提案が履行されない場合の措置 受注者の責により入札時の技術提案等が実施されていないと判断された場合は、ペナルティとし</p>

	て、工事成績評定を減じる措置をとることとし、未実施の技術提案等の項目ごとに5点を減じる。
11 工事における創意工夫等実施状況	受注者は工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目又は地域社会への貢献として評価できる項目について、工事完了までに所定の様式により提出することができる。
12 ワンデーレスポンスの実施	<p>(1)「ワンデーレスポンス」とは、受注者からの質問、協議への回答は、基本的に「その日のうち」に回答するよう対応する。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議のうえ、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」にすることである。</p> <p>(2)受注者は計画工程表の提出にあたっては、監督職員と協議のうえ、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる方法により、無駄を排した最適な工程表を作成すること。</p> <p>(3)受注者は工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督職員へ報告すること。</p> <p>(4)効果・課題等を把握するためアンケート等のフォローアップ調査を実施する場合があるため、協力すること。</p>
13 調査に対する協力	<p>(1)受注者は発注者が自ら又は発注者が指定する第三者が行う調査に対して、監督職員の指示によりこれに協力しなければならない。この場合、発注者は、具体的な内容等を事前に受注者に通知するものとする。</p> <p>(2)受注者は当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。また、工期経過後においても同様とする。</p> <p>ア 調査票等に必要事項を正確に記入し国に提出する等、必要な協力を行わなければならない。</p> <p>イ 調査票等を提出した事業所を国が事後に訪問して行う調査・指導の対象に受注者になった場合、受注者は、その実施に協力しなければならない。</p> <p>ウ 正確な調査票等の提出が行えるよう、受注者は労働基準法等に従って就業規則を作成するとともに賃金台帳を調製・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。</p> <p>エ 当該工事の一部について下請け契約をする場合は、受注者は当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む）が前号と同様の業務を負う旨を定めなければならない。</p>
14 過積載防止	「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」及びその他関係法令を遵守し、過積載のないよう下請業者、納入業者等を指導監督すること。
15 近隣への配慮	<p>本工事の施工に際しては、工事による騒音、振動、安全対策等について、規制等を遵守するのはもちろんのこと、近隣に十分配慮し施工完了すること。近隣に対して工種、作業内容等を明示し理解と協力が得られるよう努めること。作業時間、搬出入経路の計画に当たっては、監督職員と協議し、作業内容を遵守すること。</p> <p>(1)本工事関係車両等の付近公道での駐車及び待機は厳禁とする。また、場内、場外を問わず作業員がアイドリングした車内での休憩等することを禁ずる。</p> <p>(2)本工事を起因とする付近道路の汚れ等は、速やかに清掃すること。</p> <p>(3)喫煙が禁止されている場所及びその周辺では受動喫煙防止等に十分配慮すること。</p>
16 VE 提案	<p>制限付一般競争入札による工事においては、契約締結後に施工方法等の提案を受付ける。</p> <p>VE 提案については、技術管理課ホームページ「契約後 VE 方式のページ」による。</p>
17 施工図等の取扱	施工図等の著作権に係わる工事目的物等に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。
18 技術研修会の開催に対する協力	受注者は、千葉市及び関係団体から当該工事現場を使用した技術研修会の開催に関する依頼を受けた場合は、これに協力するものとする。
19 防振ゴム等の品質確保	東洋ゴム化工品(株)及びニッタ化工品(株)で製造された製品や材料を使用する場合は、第三者機関による品質を証明する書類を提出するものとする。
20 中間技術検査 (建標、電標、機標 1.6.2)	<p>以下のいずれかの項目に該当する場合、実施する。</p> <p>ただし、単純工事など中間技術検査の効果が期待できない工事については、別途工事検査室と協議のうえ、対象外とする場合がある（・該当：協議済により対象外 ・非該当）。</p> <p>(1)当初請負契約金額1億円以上かつ工期が6か月以上の工事</p> <p>(2)「千葉市建設工事低入札価格取扱要領」に基づく調査において履行可能と判断し契約締結をした工事（対象外とした工事も含む）</p> <p>(3)工事担当課長が必要と認めた工事（・適用 ・非適用）</p>

	<p>※実施時期・回数は、監督職員の指示による。</p>
21 社内検査	<p>下記いずれかに該当する工事は、社内検査員届、社内検査員経歴書、品質確認書及び社内検査結果を記載した報告書を提出する。</p> <p>(1) 当初請負契約金額1億円以上の工事</p> <p>(2) 工事担当課長が必要と認めた工事（・適用 ・非適用）</p>
22 現場代理人の取扱い	<p>本市が発注する建設工事で次に掲げる要件のすべてを満たしている場合は、現場代理人を3件まで兼任することができる。</p> <p>(1) 請負金額が9,000万円未満（建築一式工事以外は、請負金額4,500万円未満）であること</p> <p>(2) 低入札価格調査基準価格を下回る価格により落札したものでないこと</p> <p>(3) 特定建設工事共同企業体として契約するものでないこと</p> <p>(4) 兼任する工事が国又は他の地方公共団体発注工事であって、当該工事の発注者から現場代理人の兼任に関して認められていること</p> <p>(5) 兼任する工事の工事箇所が千葉市内に限ること</p> <p>また、別敷地にて2件以上の工事を併せて発注する場合、一方の工事の請負金額が9,000万円以上（建築一式工事以外は、請負金額4,500万円以上）の場合は、現場代理人とは別に補助技術者（他の工事現場に常駐し連絡や指示等を行う者）を専任する。</p>
23 監理技術者の取扱い	<p>本工事において、監理技術者を専任配置する場合においては次の各号の要件をすべて満たす場合は、監理技術者を2件まで兼任することができる。</p> <p>(1) 建設業法第26条第3項第2号による監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。</p> <p>(2) 監理技術者補佐は、主任技術者の資格を有する者（建設業法第7条第2号イ、ロ又はハに該当する者）のうち一級の技術検定の第一次検定に合格した者（一級施工管理技士補）又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定種目は、建設業法第26条第3項第2号の規定の適用を受ける監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。</p> <p>(3) 請負代金の額が2億円未満であること。</p> <p>(4) 低入札価格調査基準価格を下回る価格により落札し、契約するものでないこと。</p> <p>(5) 特定建設工事共同企業体として契約するものでないこと。</p> <p>(6) 公告又は指名若しくは見積通知書において、主任（監理）技術者の専任配置を求めているものでないこと。</p> <p>(7) 兼任する工事が、千葉市が発注する建設工事であること。</p>
24 デジタル工事写真	<p>小黑板の電子化を行う場合は、現行の営繕工事写真撮影要領に準じて、下記の項目を全て実施する。</p> <p>(1) 受注者は、小黑板の電子化の導入に必要な使用機器については、営繕工事写真撮影要領「3. (3) 撮影方法」に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認（改ざん検知機能）は「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC 暗号リスト)」に記載している技術を使用する。</p> <p>また、受注者は監督員に対し、工事着手前に、本工事での使用機器について提示する。</p> <p>(2) 受注者は、(1)の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黑板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黑板情報の電子的記入を行う項目は、営繕工事写真撮影要領「3. (3) 撮影方法」による。ただし、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工程については、使用機器の利用を限定するものではない。</p> <p>(3) 工事写真の取扱いは営繕工事写真撮影要領に準ずるが、(2)に示す小黑板情報の電子的記入については、営繕工事写真撮影要領「4. 編集の禁止」で規定されている写真編集には該当しない。</p> <p>(4) 受注者は納品時に、URL (http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index.html) のチェックシステム（信憑性チェックツール）又はチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黑板情報の電子的記入を行った写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督員へ提出するものとする。なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。</p>
25 従事期間	<p>現場代理人、主任技術者又は監理技術者の従事期間は、原則、契約期間とする。ただし、現場への専任を要しない期間を定める場合は、「監理技術者制度運用マニュアル（令和7年1月28日国不建技第147号）」を参考に、監督職員との協議により決定する。</p>
26 設計変更	<p>本工事において契約書の規定により行う、設計図書の変更手続きについては、千葉市請負工事設計変更等ガイドラインに基づき実施するものとする。</p>

27 ウィークリースタ ンスの実施	本工事は、ウィークリースタンス実施対象工事である。実施に際しては、別に定める「ウィークリースタンス実施要領」に基づき実施するものとする。
28 工期又は請負代金 の額に影響を及ぼす 事象に関する情報の 通知	落札者（随意契約の場合にあっては、契約の相手方）は、建設業法（昭和 24 年法律第 100 号）第 20 条の 2 第 2 項の規定に基づき、工期又は請負代金の額に影響を及ぼす事象が発生するおそれがあると認めるときは、落札決定（随意契約の場合にあっては、契約の相手方の決定）から請負契約を締結するまでに、千葉市長に対して、その旨を当該事象の状況の把握のため必要な情報と併せて通知すること。

2 一般共通事項（選択事項）

1電気保安技術者
(建標 1.3.3、電標 1.3.2、機標 1.3.2)

2施工条件
(建標 1.3.5、電標 1.3.3、機標 1.3.3)

3発生材の処理等
(建標 1.3.11、電標 1.3.9、機標 1.3.9)

適用する。

(1) 建設副産物等

「建設副産物の処理基準及び再生資材の利用基準」に従って適切に処理する。

ア 工事に伴う発生材の処分は、事前に「産業廃棄物処理計画書」を提出し監督職員の承諾を受ける。
「産業廃棄物処理計画書」の内容は、監督職員の指示による。

イ 請負金額 100 万円以上の工事について建設資材利用、建設副産物の発生・排出の量の大小及び有無にかかわらず、建設副産物情報交換システム (COBRIS) により本工事に係る「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を作成し、施工計画書に含め各 1 部提出すること。
また、計画の実施状況 (実績) については「再生資源利用実施書」「再生資源利用促進実施書」及び「工事登録証明書」を作成し、各 1 部提出する。

ウ 建設廃棄物の処理を委託する場合は、運搬あるいは処理について許可業者と各々建設廃棄物処理契約を締結し「建設廃棄物処理委託契約書」を監督職員に提示するとともに、写しを提出すること。

エ 建設副産物処理に先立ち、「建設副産物処理承認申請書」(副処：様式-1)を作成し、監督職員の確認を受け、1 部提出すること。

オ 建設副産物の処理完了後速やかに「建設副産物処理調書」(副処：様式-2)を作成するとともに、処理が完了したことが分かる資料 (取引証明書、受入伝票等) を添付し、監督職員に提出すること。
受注者は、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) により建設廃棄物の適正な処理を確認するとともに、監督職員から請求があった場合に、速やかに提示できるように常に整理しておくこと。

カ 舗装切断作業時における濁水は汚泥として処理を行うこと。

キ 再資源化等をする施設の名称と所在地

資材の種類	施設の名称	所 在 地
コンクリート	三宝建設(株) 千葉	習志野市茜浜 1 丁目 14-1
アスファルト	(株)NIPPO 千葉合材工場	千葉市稲毛区六方町 258-1
濁水	太陽建設(株)	市原市八幡海岸通 1969-65

※再資源化等をする施設を変更する際には監督職員と協議を行うこと

ク 産業廃棄物の収集又は運搬に伴う運搬車両の表示及び書面の備え付け
産業廃棄物を自ら収集又は運搬する場合は、運搬する車両の車体の両側面に、以下の事項を鮮明に表示すること。また、必要事項を記載した書類を常時携帯すること。
(ア) 産業廃棄物の収集又は運搬の用に供する旨の表示 (産業廃棄物運搬車等)
(イ) 排出事業者名 (〇〇株式会社 等)

また、収集運搬車両の表示状況及び書面の備え付け状況が確認できる写真を撮影すること。

(2) 建設リサイクル法

「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という。）第9条第1項に規定する対象建設工事においては、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務付けられる。

ア 特定建設資材の分別解体等・再資源化等の適正な措置

建設リサイクル法第13条の規定に基づく書面については、契約締結時に発注者と受注者の間で確認される事項であり、原則、発注者が条件明示した方法により処理することとする。ただし、それにより難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

イ 受注者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条に基づき、以下の事項を「再資源化等報告書」に記載し、監督職員に報告することとする。

(ア) 再資源化等が完了した年月日

(イ) 再資源化等した施設名称及び所在地

(ウ) 再資源化等に要した費用

なお、書面に添付する[再生資源利用実施書]及び[再生資源利用促進実施書]は建設副産物情報交換システム(COBRIS)を用いて作成したものを使用するものとする。

ウ 請け負おうとする建設業者からの事前説明に関する事項

(ア) 建設リサイクル法第12条で、対象建設工事を請け負おうとする建設業を営む者は、発注者に対し、対象建設工事の届出に関する事項を記載した「説明書」を提出し説明を行うこととする。

(イ) 書面の提出は、契約に先立って行うこととする。

(ウ) 書面は施工計画書に添付するものとする。

エ 分別解体の方法

	工程	作業内容	分別解体等の方法
工程ごとの作業内容及び解体方法	造成等	造成等の工事 ・有	・手作業 ・手作業・機械作業の併用
	基礎・基礎杭	基礎・基礎杭の工事 ・有	・手作業 ・手作業・機械作業の併用
	上部構造部分・外装	上部構造部分・外装の工事 ・有	・手作業 ・手作業・機械作業の併用
	屋根	屋根の工事 ・有	・手作業 ・手作業・機械作業の併用
	建築設備・内装等	建築設備・内装等の工事 ・有	・手作業 ・手作業・機械作業の併用
	その他	その他の工事 ・有	・手作業 ・手作業・機械作業の併用

(3) 建設発生土の処分

ア 建設発生土の搬出

・発生土なし ☐ 発生土あり

☐ 搬出あり 名称及び所在地：

受入れ時間帯：

仮置き等：

搬出調書等：

地質分析：☐ する ・しない

※搬出先を変更する際には監督職員と協議を行うこと

・搬出なし ・構内指示の場所にたい積 ・構内指示の場所に敷き均し

イ 建設発生土の工事間利用

・利用あり

ウ 建設発生土の搬出先への情報提供

受注者は、本工事から建設発生土を100 m³以上搬出する場合は、別紙様式により搬出前に搬出先の区市町村の建設発生土担当窓口あてに、建設発生土に関する情報を郵送・FAX等で提出しなければならない。なお、提出する情報は、監督職員の指示により、また、情報提出後速やかにその写しを監督職員に提出しなければならない。

エ 受注者は、本工事において土砂（土、砂利等）の搬入・搬出に係る運搬量が5,000 m³以上の場合は、「千葉市土砂運搬適正化対策要綱」に基づき書面又は図面により協議を行うこと。

<p>4 材料・機材の品質等 (建標、電標、機標 1.4.2)</p>	<p>本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するもの、また、(社)公共建築協会が実施する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」によって所要の品質性能を有することの評価を受けた材料・機材等を使用することとする。ただし、これによりがたい場合、JIS 及び JAS マークの表示のない材料及びその製造者等は、次の(1)～(6)の事項を満たすものとする。</p> <p>(1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること (2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること (3) 安定的な供給が可能であること (4) 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること (5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること (6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること</p> <p>なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関(社)公共建築協会 他)が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。</p> <p>また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。</p> <p>・機器仕様は、(・製造者の標準仕様 ・国土交通省仕様)とする。 ・機材等は、設計図書に定める品質及び性能と同等品以上とする場合あらかじめ監督職員の承諾を受ける。</p>										
<p>5 技能士 (建標、機標 1.5.2)</p>	<p>適用する作業は下記による。 作業種別： 職種：</p>										
<p>6 見本施工の実施 (建標 1.5.5、電標 1.5.3、機標 1.5.4)</p>	<p>見本施工の部分・部品(外装塗装)</p>										
<p>7 化学物質の濃度測定 (建標 1.5.9、電標 1.5.7、機標 1.5.8)</p>	<p>施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン(教育施設に限る)、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、報告すること。</p> <p>測定方法 ・パッシブ法 ・アクティブ法 着工前の測定 ・行う 測定対象室 ・図示 ・室名() 測定箇所数 ・図示 ・箇所数()</p> <p>報告の様式等については、監督職員との協議による。</p>										
<p>8 完成図等 (建標、電標、機標 1.7.1) (表 1.7.1)</p>	<table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/>完成図 ニツ折り製本 A4 版(縮刷版)</td> <td>5部</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/>保全に関する資料</td> <td>2部</td> </tr> <tr> <td>・材料、機器完成図</td> <td>部</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/>保全情報システム入力シート</td> <td>1部</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/>電子納品</td> <td>2組</td> </tr> </table> <p>千葉市都市局建築部の電子納品運用ガイドライン[建築工事・委託業務編](令和5年4月版)による。詳細は事前協議チェックシートにより監督職員と協議する。</p> <p>施工に伴う保証書は、受注者、施工業者、メーカーの連名で3部提出する。(2部は写し可)</p> <p>(保証書)</p> <p><input type="checkbox"/>塩ビシート防水・塗膜防水 工事目的物の引渡し日から 10 年間</p>	<input type="checkbox"/> 完成図 ニツ折り製本 A4 版(縮刷版)	5部	<input type="checkbox"/> 保全に関する資料	2部	・材料、機器完成図	部	<input type="checkbox"/> 保全情報システム入力シート	1部	<input type="checkbox"/> 電子納品	2組
<input type="checkbox"/> 完成図 ニツ折り製本 A4 版(縮刷版)	5部										
<input type="checkbox"/> 保全に関する資料	2部										
・材料、機器完成図	部										
<input type="checkbox"/> 保全情報システム入力シート	1部										
<input type="checkbox"/> 電子納品	2組										
<p>9 概成工期</p>	<p>適用する ()</p>										
<p>10 設計 GL</p>	<p><input type="checkbox"/>図示 ・設計 GL = 現状 GL</p>										
<p>11 工事用水</p>	<p>構内既存の施設 ・利用できない <input type="checkbox"/>利用できる (<input type="checkbox"/>有償 ・無償)</p>										
<p>12 工事用電力</p>	<p>※ただし、これに要する設備工事は本工事に含む</p> <p>構内既存の施設 ・利用できない <input type="checkbox"/>利用できる (<input type="checkbox"/>有償 ・無償)</p>										
<p>13 補助事業</p>	<p>※ただし、これに要する設備工事は本工事に含む</p>										
<p>14 週休2日制工事</p>	<p>本工事は国庫補助事業である。</p>										
<p>14 週休2日制工事</p>	<p>本工事は「千葉市建築工事における週休2日制工事実施要領」に基づく、週休2日制対象工事である。受注者希望型は、受注者が工事着手前に発注者に対して週休2日に取り組む旨を協議したうえで取</p>										

	<p>り組むことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>発注者指定型 <input type="checkbox"/>月単位 ・ 通期) ・ 受注者希望型</p>
15 情報共有システム	<p>本工事は「千葉市建築工事における情報共有システム試行要領」に基づく、情報共有システム（以下「システム」という。）利用対象工事である。ただし、システム利用を希望する受注者希望型の受注者は、監督職員と協議した上で取り組むことができる。</p> <p>なお、システムを利用する工事の工事関係書類は原則電子データとして取り扱うこととする。</p> <p><input type="checkbox"/>発注者指定型 ・ 受注者希望型</p>
16 遠隔臨場	<p>本工事は「千葉市建築工事における遠隔臨場試行要領」に基づく、遠隔臨場対象工事である。ただし、遠隔臨場を希望する受注者希望型の受注者は、監督職員と協議した上で取り組むことができる。</p> <p>・ 発注者指定型 ・ 受注者希望型</p>
17 細目別内訳書の提出	<p>千葉市建設工事請負契約約款第3条に規定する請負代金内訳書の直接工事費の記載方法は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事内訳書標準書式」における細目別内訳まで記載するものとする。なお、細目別内訳の書式及び提出日については監督職員と協議できるものとする。</p>
18 アスベスト含有建材の事前調査	<p>大気汚染防止法の規定により、アスベスト含有建材の事前調査を実施すること。</p>
19 共通費実態調査	<p>本工事は、受注者による営繕工事の実施状況を費用の面から把握し、発注者における工事費積算に反映することを目的とした、共通費実態調査対象工事である。なお、調査票は国土交通省HP「公共建築工事 共通費実態調査」からダウンロードするものとする。</p>
20 工期・工程等	<p>本工事は、猛暑による作業不能日数を次のとおり見込んでいる。</p> <p>(1) 作業不能日数： <u>3</u> 日間</p> <p>(2) 上記(1)は、環境省が公表する関東地方 千葉 千葉地点におけるWBGT値（気温、湿度、日射・輻射を考慮した暑さ指数）過去5年分（令和 2 年～ 令和6 年）について、本工事の工期に対応する期間（行政機関の休日に関する法律（昭和 63 年法律第 91 号）に定める行政機関の休日及び夏季休暇（3日）を除く。）において、8時から17時の間にWBGT値が31以上となった時間を算定し、日数に換算したもの5年分を平均したもの。</p> <p>(3) 気象状況により工期中に発生した猛暑による作業不能日数（当該現場における定時の現場作業時間において、環境省が公表する関東地方 千葉 千葉地点におけるWBGT値が31以上となり、かつ受注者が契約工事単位で全作業を中断し、又は現場を閉所した時間を算定し、日数に換算したもの（小数点以下第一位を四捨五入する。))が(1)の日数から著しく乖離した場合には、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。</p>

3 仮設工事

1 監督員事務所 (建標 2.3.1)	<p>監督職員事務所の規模その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10㎡程度 ・ 20㎡程度 ・ 35㎡程度 ・ 65㎡程度 ・ 100㎡程度 <p>監督員事務所に設ける設備、備品の種類、数量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 監督職員の指示による
2 仮囲い等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮囲い 先行する杭工事から引継ぎ <ul style="list-style-type: none"> ・ 成形鋼板 (<input type="checkbox"/> H = 2.0m ・ H = 3.0m) ・ クロスゲート (<input type="checkbox"/> H = 1.8m、W = 5.4m <input type="checkbox"/> H = 2.0 m、W = 8.1m) ・ シートゲート (<input type="checkbox"/> H = 1.8m、W = 6.0m <input type="checkbox"/> H = m、W = m) ・ パネルゲート (<input type="checkbox"/> H = m、W = m) ・ 仮設通路 設置箇所 <input type="checkbox"/> 図示による ・ ・ 仮設便所 設置する ・ 交通誘導員 (<input type="checkbox"/> 常駐 ・ 必要に応じて)
3 足場等 (建標 2.2.4)	<p>足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。</p>

4 土工事

1 埋戻し及び盛土 (建標 3.2.3) (表 3.2.1)	<p>埋戻し及び盛土の材料及び工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A 種 施工箇所() ・ <input type="checkbox"/> B 種 施工箇所(図示による) ・ C 種 施工箇所()、土質()、受渡場所() ・ D 種 施工箇所()
2 建設発生土の処理 (建標 3.2.5)	<p>2 一般共通事項(選択事項)の「3 発生材の処理等」による</p>

5 地業工事

1 試験及び報告書 (建標 3.2.1) (建標 4.2.1～3) (建標 4.3.1) (建標 4.3.4～5) (建標 4.5.5～6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 杭基礎 支持地盤の位置及び土質(基礎ぐいの先端位置含む) <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示による ・ <p>試験杭の位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示による ・ ・ 直接基礎 支持地盤の位置及び土質(基礎底部の位置含む) <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示による ・ <p>試験掘り(根切り底の状態の確認等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行わない ・ 行う 位置等 ・ 図示による ・ ・ 杭の載荷試験 載荷試験の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉛直載荷試験 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地盤工学会基準 JGS ()による ・ ・ 水平載荷試験 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地盤工学会基準 JGS 1831 による
---	--

2既製コンクリート杭
(建標 4. 2. 2)
(建標 4. 3. 1)
(建標 4. 3. 3～6)
(建標 4. 3. 8)
(建標 7. 2. 5)

試験の位置、本数、載荷荷頂
・ 図示による
報告書の記載事項

□地盤の載荷試験

載荷試験の方法

平板載荷試験 ・ 地盤工学会基準 JGS1521 による

試験の位置、載荷荷重

・ 図示による

報告書の記載事項

種類

・ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC 杭)

・ プレストレスト 鉄筋コンクリート杭 (PRC 杭)

・ 外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC 杭)

SC 杭の鋼管材料 ・ SKK400 ・ SKK490

杭の種類、性能及び曲げ強度区分(種別)、寸法、継手の箇所数等 (・ 図示による)

		種類 種別	コンク リート 強度 (N/mm ²)	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (mm)	継手数	セット数	長期設計 支持力 (kN/本)	備考
試験杭	上杭									
	中杭									
	下杭									
本杭	上杭									
	中杭									
	下杭									

杭先端部形状

・ 開放形 ・ 半開放形 ・ 閉そく形

・ セメントミルク工法

掘削深さ

・ 図示による

杭の支持層への根入れ長さ

・ 図示による

杭の水平方向の位置ずれ精度

・ 杭径の 1/4 かつ 100mm 以下

・ 特定埋込杭工法

・ 平成 13 年国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容

支持力式で $\alpha = 250$ を採用できる工法

・ 平成 13 年国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容

支持力式のうち α 、 β 、 γ が以下の値を採用できる工法

$\alpha = (\quad)$ 、 $\beta = (\quad)$ 、 $\gamma = (\quad)$

工法

3 鋼杭地業

(建標 4. 2. 2)
(建標 4. 3. 5)
(建標 4. 4. 3～4)
(建標 4. 4. 5)
(建標 7. 2. 5)

- ・プレボーリング拡大根固め工法
- ・中掘り拡大根固め工法
- ・

杭継手工法

- ・アーク溶接継手溶接材料
- ・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)

杭頭の処理

- ・処理しない
 - ☒ 処理する
- 処理方法(切断に伴う補強方法含む)
- ☒ 図示による
 - ・

杭の種類(材料)、寸法、継手等 (・ 図示による)

	種類	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (mm)	継手数	セット数	長期設計 支持力 (kN/本)	備考
試験杭	上杭							
	中杭							
	下杭							
本杭	上杭							
	中杭							
	下杭							

特定埋込杭工法

- ・平成 13 年国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式 $\alpha=250$ を採用できる工法
 - ・平成 13 年国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式のうち α 、 β 、 γ が以下の値を採用できる工法
- $\alpha=(\quad)$ 、 $\beta=(\quad)$ 、 $\gamma=(\quad)$

工法

- ・中掘り拡大根固め工法

杭の継手の工法

- ・アーク溶接継手
- ・機械式継手

杭頭の処理

- ・処理しない
 - ・処理する
- 処理方法(切断を伴う補強方法含む)
- ・図示による
 - ・

4 場所打ちコンクリート杭地業

(建標 4. 2. 2)
(建標 4. 3. 4)
(建標 4. 5. 1)
(建標 4. 5. 4～4. 5. 6)
(建標 5. 2. 1)
(表 4. 5. 1)

工法

- ・アースドリル工法
 - ・リバース工法
 - ・オールケーシング工法
 - ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
- 鋼管の材料 ・ SKK400 ・ SKK490 ・
- ・拡底杭工法
 - ・

寸法等 (・図示による)

	鋼管厚 (mm)	鋼管径 (mm)	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	セット 数	長期設計支持 力 (kN/本)	備考
試験杭							
本杭							

・孔壁の確認(超音波測定器による)

測定箇所

・試験杭()箇所、本杭()箇所

杭の支持層への根入れ長さ

・図示による

杭の水平方向の位置ずれ精度

・杭径の 1/4 かつ 100mm 以下

鉄筋の種類

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
・ SD295		
・ SD345		
・		

帯筋の加工及び組立

・図示による

鉄筋の最小かぶり厚さ

・ 100mm

鉄筋かごの補強

・図示による

主筋の基礎底盤への定着長さ

・図示による

コンクリートの設計基準強度

・図示による

コンクリートの種別

・ A 種 ・ B 種 ・ 評定等の内容による

スランプ

・ 18cm ・ 21cm ・ () cm

構造体強度補正值 (S)

(N/mm²)

鋼管部分の材料

・図示による

5 砂利地業

(建標 4. 6. 2～3)

材料

☐ 再生クラッシャラン ・ 切込砂利 ・ 切込碎石

範囲

☐ 基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下、土間コンクリート下

・図示による

6 砂地業

(建標 4. 6. 2～3)

材料

・ シルト ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂

範囲

・図示による

<div>7</div> <div>床下防湿層</div> <div>(建標 4. 6. 5)</div>	<div>範囲</div> <div> <div>・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)</div> <div>・図示による</div> </div>
---	--

6 鉄筋工事

1鉄筋
(建標 5. 2. 1)
(建標 5. 3. 2)
(建標 5. 3. 5)

鉄筋の種類

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
<input type="checkbox"/> SD295	<input type="checkbox"/> D16 以下	
<input type="checkbox"/> SD345	<input type="checkbox"/> D19 以上 D25 以下	
・	・	
・	・	

加工

・鉄筋の折曲げ角度が 90° 未満の折曲げ内法直径 (D)

() 以上

鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)

軽量コンクリートがある場合

・最小かぶり厚さに加える厚さ (10)mm

耐久性上不利な個所がある場合(塩害等を受けるおそれのある部分等)

・最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm

2溶接金網
(建標 5. 2. 2)

鉄線の形状等

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位
・溶接金網	JIS G 3557	<div>・ 6φ 100×100</div> <div>・ 6φ 150×150</div>	
・鉄筋格子			

3鉄筋の継手及び定着
(建標 5. 3. 4)

鉄筋の継手の方法等

部位	継手の方法		呼び径 (mm)
柱及び梁主筋	<input type="checkbox"/> ガス圧接 ・溶接継手	<div>・機械式継手</div> <input type="checkbox"/> 重ね継手	<div>重ね継手</div> <input type="checkbox"/> D10 以上 D16 以下 ガス圧接 <input type="checkbox"/> D19 以上 D25 以下
耐力壁の鉄筋	<input type="checkbox"/> 重ね継手	・	・
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	<input type="checkbox"/> 重ね継手	・ガス圧接	・
上記以外()	・重ね継手	・	・

継手位置

☐図示による

・

・先組み工法等で、柱及び梁の主筋のうち、隣り合う継手を同箇所に設ける場合

・図示による

・

機械式定着工法

・適用する

適用箇所 (・図示による

・

)

種類 (・図示による

・

)

<div>4 各部配筋 (建標 5.3.7)</div> <div>5 機械式継手 (建標 5.5.3) (建標 5.5.5)</div> <div>6 溶接継手 (建標 5.6.3) (建標 5.6.5)</div>	<p>各部配筋</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による <p>適用箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による <p>平成 12 年建設省告示第 1463 号に適合する性能</p> <ul style="list-style-type: none"> A 級 <p>機械式継手の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による <p>鉄筋相互のあき</p> <ul style="list-style-type: none"> 評定等の内容による 図示による <p>施工完了後の継手部の試験</p> <ul style="list-style-type: none"> 外観試験(全ての継手部) <p>試験項目、試験方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による <ul style="list-style-type: none"> 超音波測定試験 <p>試験対象</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による <p>不合格となった場合の措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による <p>適用箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による <p>平成 12 年建設省告示第 1463 号に適合する性能</p> <ul style="list-style-type: none"> A 級 <p>溶接継手の工法</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による <p>鉄筋相互のあき</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による <p>施工完了後の継手部の試験</p> <ul style="list-style-type: none"> 外観試験(全ての継手部) <p>試験項目、試験方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による <ul style="list-style-type: none"> 超音波探傷試験 <p>試験対象</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による <p>不合格となった場合の措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による
---	---

7 コンクリート工事

1

コンクリートの類別等

(建標 4. 6. 4)

(建標 6. 2. 1～6. 2. 4)

(建標 6. 2. 10)

(建標 6. 14. 1)

(建標 6. 15. 1)

(表 6. 2. 2)

種類	使用箇所	設計基準強度 Fc (N/mm ²)	構造体強度補正 値	スランプ (cm)
普通コンクリート	土間等	18 ・ 21 ・ 24	有 (+) 無	15 18
	基礎、基礎梁 梁、床、壁	18 ・ 21 24	有 (+3. 6) 無	15 18
	屋外倉庫基礎	18 ・ 21 ・ 24	有 (+3. 6) 無	15 18
		18 ・ 21 ・ 24	有 (+) 無	15 ・ 18
軽量コンクリート (1 種)	各階スラ 上	18 ・ 21 ・ 24	有 (+) 無	21 ・
		18 ・ 21 ・ 24	有 (+) 無	21 ・

構造体強度補正値の適用期間は監督員と協議を行い、打設時期に応じて調合管理強度を明示すること。

JIS マーク表示認証製品を製造している工場で、かつ、全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準

特記仕様書14

	<p>に基づく監査に合格した工場（<input checked="" type="checkbox"/>マーク）から選定すること。 ただし、これにより難しい場合は、監督職員と協議する。</p>																
<p><input checked="" type="checkbox"/>2試験等 (建標 6. 5. 1～5) (建標 6. 9. 1～5)</p>	<p>次の施工箇所では、軽易なコンクリート工事のため、試験を省略する ・土間 ・床かさ上げ箇所 ・その他（ 開口閉塞部、犬走り ）</p> <p>供試体の抜き取り本数は1回の試験につき3個とする</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 調合管理強度の判定用（標準養生、材齢28日） <input type="checkbox"/> 構造体コンクリート強度の判定用①（現場水中養生、材齢28日） <input type="checkbox"/> 構造体コンクリート強度の判定用②（現場封かん養生、材齢28日及び28日超91日以内） <input type="checkbox"/> 構造体コンクリート強度の判定用③（標準養生、材齢28日） <p>強度試験を必要とする打設箇所は以下の通りとする</p> <p><input type="checkbox"/>基礎 <input type="checkbox"/>地中梁 <input type="checkbox"/>壁 <input type="checkbox"/>柱 ・梁 <input type="checkbox"/>スラブ ・階段 ・パラペット</p> <p>強度試験の実施先は、（公財）千葉県建設技術センター、大学等公的機関、JNLA（工業標準化法に基づく試験事業者登録制度）による登録試験事業者又はJAB（（財）日本適合性認定協会）による認定試験所とする。</p>																
<p>3 骨材 (建標 6. 3. 1)</p>	<p>フェロニッケルスラグ骨材、銅スラグ細骨材及び電気炉酸化スラグ骨材 ・使用する 適用箇所（・ ）</p>																
<p><input checked="" type="checkbox"/>4打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地 (建標 6. 6. 4) (建標 6. 8. 1) (建標 9. 7. 3)</p>	<p>目地の寸法（ひび割れ誘発目地を含む） ・図示による ・</p> <p>ひび割れ誘発目地の位置、形状 ・図示による ・</p>																
<p><input checked="" type="checkbox"/>5コンクリートの仕上り (建標 6. 2. 5) (表 6. 2. 4) (表 6. 2. 5)</p>	<p>合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th><th>適用箇所</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> A種</td><td><input type="checkbox"/> 図示</td></tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> B種</td><td>・図示 <input type="checkbox"/>基礎部</td></tr> <tr> <td>・ C種</td><td>・図示</td></tr> </tbody> </table> <p>コンクリートの仕上げの平たんさ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th><th>適用箇所</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> a種</td><td><input type="checkbox"/> 図示</td></tr> <tr> <td>・ b種</td><td>・図示</td></tr> <tr> <td>・ c種</td><td>・図示</td></tr> </tbody> </table>	種別	適用箇所	<input type="checkbox"/> A種	<input type="checkbox"/> 図示	<input type="checkbox"/> B種	・図示 <input type="checkbox"/> 基礎部	・ C種	・図示	種別	適用箇所	<input type="checkbox"/> a種	<input type="checkbox"/> 図示	・ b種	・図示	・ c種	・図示
種別	適用箇所																
<input type="checkbox"/> A種	<input type="checkbox"/> 図示																
<input type="checkbox"/> B種	・図示 <input type="checkbox"/> 基礎部																
・ C種	・図示																
種別	適用箇所																
<input type="checkbox"/> a種	<input type="checkbox"/> 図示																
・ b種	・図示																
・ c種	・図示																
<p><input checked="" type="checkbox"/>6打増し厚さ (打放し仕上げ部) (建標 6. 8. 1)</p>	<p>打増し厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る） <input type="checkbox"/>20mm ・ ・打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る） ・ 10mm ・ 20mm ・ <p>打増し範囲 ・図示による ・</p>																
<p><input checked="" type="checkbox"/>7型枠 (建標 6. 8. 1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・断熱材を兼用した型枠 適用箇所（・図示による ・ ） ・MCR 工法用シート 適用箇所（・図示による ・ ） <p>スリーブの材種・規格等 <input type="checkbox"/> 図示による ・</p>																

8 鉄骨工事

9 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

10 防水工事

1 アスファルト防水
(建標 9.2.2～5)
(表 9.2.3～6)
(表 9.2.9)

屋根保護防水

種別	施工箇所	断熱材
・ A-1		
・ A-2		
・ A-3		
・ B-1		
・ B-2		
・ A I-1		(厚さ) ・ mm
・ A I-2		
・ A I-3		
・ B I-1		
・ B I-2		

立ち上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置

・適用する ・適用しない

屋根露出防水

種 別	施工箇所	断熱材	仕上り塗料 種類
・ D-1			・
・ D-2			
・ D I-1		(種類) ・	
・ D I-2		(厚さ) ・ mm	

屋内防水

種別	施工箇所	種 別	施工箇所
・ E-1		・ E-2	

保護層 ・設ける (・図示)
 ・設けない

施工

防水層の下地のモルタル塗り

・適用する 施工範囲(・図示)
・適用しない

絶縁断熱工法のルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置

・図示による ・

保護層の施工

立上り部の保護工法

・乾式保護材

2 改質アスファルトシート防水
(建標 9. 3. 2～3)
(表 9. 3. 1～3)

3 合成高分子系ルーフィングシート防水
(建標 9. 4. 2～4)
(表 9. 4. 1～3)

- 乾式保護材の材料
 - ・コンクリート押え
 - ・モルタル押え(屋内等)
 - ・れんが押え (・図示)
- れんがの材料
 - ・JIS R 1250 (普通れんが及び化粧れんが)
- 屋上排水溝の設置
 - ・図示による

種別	施工箇所	断熱材	防湿用シート	仕上塗料 種類
・AS-T1				
・AS-T2				
・AS-T3				
・AS-T4				
・AS-J1				
・ASI-T1		(種類)・	・設ける	
・ASI-J1		(厚さ)・ mm	・設けない	

種別	施工箇所	可塑剤移行防止シートの材質	断熱材	歩行の仕様	仕上塗料 種類
・S-F1					
・S-F2					
・S-M1				・非歩行用 ・軽歩行用	
・S-M2					
・SI-F1			(種類)・		
・SI-F2			(厚さ)・ mm		
・SI-M1		・発砲ポリエチレンシート	(種類)・図示		
3 SI-M2			(厚さ) 35mm		

屋内防水層の種別

種別	施工箇所	保護層		
		平場のモルタル塗り		立上り部の保護 モルタル塗り厚さ
		塗厚(mm)	工法	
・S-C1		・ mm	・床塗り ・下地モルタル塗り	

断熱工法(SI-M1、SI-M2)の場合の防湿用フィルム

- ・設置する 3 設置しない

接着工法の場合のPCコンクリート部材防水下地の目地処理

- ・行う(・図示) ・行わない

PCコンクリート下地の入隅部の増張り(S-F1、SI-F1の場合)

- ・行う(・図示) ・行わない

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

- 3 図示による

4

塗膜防水
(建標 9. 5. 3)
(表 9. 5. 1～2)

種別	施工箇所	仕上塗料		保護層
		種類		
・ X－1		・ シルバー	・ カラー	
<input type="checkbox"/> X－2	パラペット、設備基礎、排水溝	・ シルバー	<input type="checkbox"/> カラー	
・ Y－1	・ 地下外壁防水 ・			
・ Y－2	・ 屋内防水 ・ 屋内防水			・ ・

5

シーリング
(建標 9. 7. 2)

シーリング材の種類	施工箇所
<input type="checkbox"/> MS－2	アルミサッシ、外壁、金物取合部
<input type="checkbox"/> PU－2	誘発目地、打継ぎ部
<input type="checkbox"/> SR－1	内部水廻り
・ PS－2	

仕上げを行わない施工箇所()

1 1 石工事

1 2 タイル工事

1 見本焼き、試験施工
(建標 11. 1. 4)

見本焼き ・ 行う ・ 行わない
試験張り ・ 行う ・ 行わない

2

セメントモルタルによるタイル張り
(建標 11. 2. 2～3)
(建標 11. 2. 6)
(表 11. 2. 3)

施工箇所	種類	形状寸法 (mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性	備考
			I 類	II 類	III 類	施 ゆ う	無 ゆ う	有	無	標 準	特 注	有	無		
足洗・シャワー	磁器	150□	<input type="checkbox"/>	・	・	・	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・	<input type="checkbox"/>	・	・	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

既調合モルタル
☐ 既調合モルタルの製造所の仕様による

壁タイル張り工法
内外装タイル (・密着張り ・改良圧着張り)
内装タイル以外のユニットタイル (・マスク張り ・モザイクタイル張り)

3 有機系接着
(建標 11. 3. 2～5)
(建標 11. 3. 7)

施工箇所	種類	形状寸法 (mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性	備考
			I 類	II 類	III 類	施 ゆ う	無 ゆ う	有	無	標 準	特 注	有	無		
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

外装タイルにおける目地詰め (・行う ・行わない)

特記仕様書18

13 木工事

1 製材

(建標 12.2.1)

(建標 12.3.2)

(表 12.2.1～2)

・「製材の日本農林規格」による下地用製材

施工箇所	寸法 (mm)	保存処理

・「製材の日本農林規格」による造作用製材

施工箇所	寸法 (mm)	保存処理
見え掛り面		
見え掛り面以外		

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	寸法 (mm)	保存処理

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	寸法 (mm)	材面の品質	防虫処理
		()	・行う ・行わない
		()	・行う ・行わない

2 造作用集成材

(建標 12.2.1)

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	見付け材面
図示		図示		

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面
		化粧薄板： 芯材：			
		化粧薄板： 芯材：			

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種名	寸法 (mm)	見付け座敷材面の品質

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種名	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け座敷材面の品質
	化粧薄板： 芯材：			

3 造作用単板積層材
(建標 12. 2. 1)
(建標 12. 3. 2)

	化粧薄板： 芯材：			
--	--------------	--	--	--

・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法 (mm)	表面の品質 (表面の化粧加工)	防虫処理
			・有り (加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し (等級：・1 等・2 等・3 等)	・行う ・行わない

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法 (mm)	表面の品質 (表面の化粧加工)	防虫処理
		・有り (加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無し ()	・行う ・行わない

・CLT (直交集成版)

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能 (使用環境)	樹種名	寸法 (mm)

4 合板等

(建標 12. 2. 1)
(建標 12. 3. 2)
(建標 19. 7. 3)
(表 19. 7. 3)

・「合板の日本農林規格」による普通合板

施工箇所	品名	単板の 樹種名	防虫処理
図示	図示		・行う ・行わない
			・行う ・行わない

・「合板の日本農林規格」による構造用合板

施工箇所	品名	単板の 樹種名	保存処理	防虫処理	強度等級
				・行う ・行わない	
				・行う ・行わない	

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	品名	厚さ (mm)	単板の 樹種名	接着の 程度	防虫処理
				・1 級 ・特類	・行う ・行わない

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板 の樹種名	厚さ (mm)	接着の 程度	防虫処理
			・1 類 ・2 類	・行う ・行わない

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	品目	厚さ (mm)	接着の 程度	単板の 樹種名	化粧加工の 方法	防虫処理
			・1 類 ・2 類		・オーバーレイ ・プリント ・塗装	・行う ・行わない

天井及び壁の仕上げに合板を使用する場合の張付け工法の種類

・ A 種 ・ B 種

・ パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態 による区分	難燃性による区分

・ 構造用パネル

施工箇所	品名	寸法 (mm)

・ ミディアムデンシティファイバーボード (MDF)

施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

5 防腐・防蟻処理
(建標 12. 3. 1)

・ 薬剤による防腐・防蟻処理を省略できる樹種による製材

適用部材 : ()

・ 工場における薬剤の加圧注入処理による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	・ K2 ・ K3 ・ K4
	・ K2 ・ K3 ・ K4

・ 薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	薬剤の種類
	・
	・

・ 薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理

適用部材 : ()

・ 合板等への加圧注入処理等による防腐・防蟻処理

適用部材 : ()

1 4 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺
(建標 13. 2. 2～3)
(表 13. 2. 1)

施工箇所	塗膜の耐久性 の種類、めつき 付着料等	厚さ (mm)	屋根葺形式	葺板の 寸法・厚さ	下地	留め付け方法

2 折板葺
(建標 13. 3. 3)

			・ 立て平葺 ・ 心木なし 瓦棒葺 ・ 横葺 ・			

下葺材料 ・ アスファルトルーフィング 940
 ・ 改質アスファルトルーフィング下葺材
 (・ 一般タイプ ・ 複層基材タイプ ・ 粘着層付タイプ)

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

・ 図示による ・

横葺の場合のけらば納め

・ つかみ込み納め ・ けらば包み納め

施工箇所	形式	山高・山ピッチによる区分		耐力による区分	厚さ (mm)	軒先面戸板
		山高	山ピッチ			
屋外倉庫	・	88	200	()種	0.5	・ 有り ・ <input type="checkbox"/> 無し

材質の種類(ヨドレーフ 88)

塗膜の耐久性の種類、めっき付着量等()

断熱材 ☐ 有り(種別：発泡ポリエチレン、厚さ：4mm、防火性能： 時間)

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

・ 図示による ・

耐雪性能に応じた工法

・ 適用する(・ 図示 ・)

3 粘土瓦葺
(建標 13. 4. 2～3)

施工箇所	種類			大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦の仕様
	製法による区分	形状による区分	寸法による区分				

JIS A 5208 に基づく凍害試験 (・ 行う ・ 行わない)

瓦緊結用釘又はねじ (種類、径、長さ)

棟補強等に使用する金物等 材質 (・ ステンレス製 ・ 溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製)
 (形状、寸法、留め付け方法)

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法などの工法

風圧力 ・ 図示による ・

地震力 ・ 図示による ・

瓦緊結用釘又はねじの有効長さの最小値 ()mm

瓦棧木の留付け工法 ・ 図示による ・

棟の工法

・ 7 寸丸伏せ棟又は F 型用冠瓦伏せ棟 ・ のし積み棟

面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合

・ モルタルによる ・ 瓦葺き用しっくいによる

4 とい
(建標 13. 5. 2)
(表 13. 5. 1)

といの材種 ・ 配管用鋼管 ☐ 硬質ポリ塩化ビニル管
 ・ 表面処理鋼板
 ・ 表面及び裏面の塗膜の種類()
 ・ 耐酸被覆鋼板 ・

15 金属工事

1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (建標 14. 2. 1) (表 14. 2. 1)	種別	施工箇所(成型板、笠木、建具以外)	色合い等
	・ AB－1種		
	・ AB－2種		
	・ AC－1種		
	・ AC－2種		
	・ BA－1種		
	・ BA－2種		
	・ BB－1種		
	・ BB－2種		
	・ BC－1種		
	・ BC－2種		
	・ C種		
	・ 常温乾燥形の場合()		
2 鉄鋼の亜鉛めっき (建標 14. 4. 2) (表 14. 4. 1)	表面処理方法	種別	施工箇所(手すり、タラップ以外)
	溶融亜鉛めっき	・ A種	
		・ B種	
		<input type="checkbox"/> C種	ルーバー下地
	電気亜鉛めっき	・ D種	
		・ E種	
		・ F種	
3 軽量鉄骨天井下地 (建標 14. 4. 3～4)	<input type="checkbox"/> 屋外の場合の形式及び寸法		
	野縁受、つりボルト、インサートの間隔及び周辺部端からの距離		
	<input type="checkbox"/> 図示による		

16 左官工事

特記仕様書24

・外装薄塗材 E	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凸凹状 ・さざ波状 ・着色骨材砂壁状	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り		・適用する ・適用しない
<input type="checkbox"/> 可とう形外装薄塗材 E	<input type="checkbox"/> 砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凸凹状 ・さざ波状	<input type="checkbox"/> 吹付け <input type="checkbox"/> こて塗り ・ローラー塗り		・適用する ・適用しない
<input type="checkbox"/> 防水形外装薄塗材 E	・ゆず肌状 <input type="checkbox"/> さざ波状 ・凸凹状	・吹付け <input type="checkbox"/> ローラー塗り		・適用する <input type="checkbox"/> 適用しない
・外装薄塗材 S	・砂壁状	・吹付け		・適用する ・適用しない
・内装薄塗材 C ・内装薄塗材 L	・凸凹状 ・平たん状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない
・内装薄塗材 Si ・内装薄塗材 E	・砂壁状じゅらく ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凸凹状 ・さざ波状	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない
・内装薄塗材 W	・京壁状じゅらく ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凸凹状	・吹付け ・こて塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない

・厚付け仕上塗材

呼び名	仕上の形状	工 法	吸放湿性	防火材料
・外装厚塗材 C	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凸凹状 ・ひき起こし ・かき起こし	・吹付け ・こて塗り		・適用する ・適用しない
・外装厚塗材 Si ・外装厚塗材 E	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凸凹状 ・ひき起こし	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り		・適用する ・適用しない
・内装厚塗材 C	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凸凹状 ・ひき起こし ・かき起こし	・吹付け ・こて塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない
・内装厚塗材 L	・平たん状 ・凸凹状 ・ひき起こし ・かき起こし	・こて塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない
・内装厚塗材 G	・平たん状 ・凸凹状 ・ひき起こし ・かき起こし	こて塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない
・内装厚塗材 Si ・内装厚塗材 E	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凸凹状 ・ひき起こし	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない

外装厚塗材 C における上塗材がセメントスタッコ以外の場合

	<div>()</div> <div>外装厚塗材 Si、外装厚塗材 E における上塗材の適用</div> <div><div>・適用する</div><div>・適用しない</div></div> <div>・複層仕上塗材</div> <div>・軽量骨材仕上塗材</div> <table><tr><th>呼び名</th><th>仕上の形状</th><th>工法</th><th>耐候性</th><th>防火材料</th></tr><tr><td><div>・複層塗材 CE</div><div>・複層塗材 RE</div><div>・複層塗材 Si</div><div>・複層塗材 E</div></td><td><div>・凸部処理</div><div>・凹凸状</div><div>・ゆず肌状</div></td><td><div>・吹付け</div><div>・ローター塗り</div></td><td><div>・候補形 3 種</div><div>・</div></td><td><div>・適用する</div><div>・適用しない</div></td></tr><tr><td><div>・可とう形複層塗材 CE</div></td><td><div>・凸部処理</div><div>・凹凸状</div><div>・ゆず肌状</div></td><td><div>・吹付け</div><div>・ローター塗り</div></td><td><div>・候補形 3 種</div><div>・</div></td><td><div>・適用する</div><div>・適用しない</div></td></tr><tr><td><div>・防水形複層塗材 CE</div><div>・防水形複層塗材 RE</div><div>・防水形複層塗材 E</div></td><td><div>・凸部処理</div><div>・凹凸状</div><div>・ゆず肌状</div></td><td><div>・吹付け</div><div>・ローター塗り</div></td><td><div>・候補形 3 種</div><div>・</div></td><td><div>・適用する</div><div>・適用しない</div></td></tr><tr><td><div>・吹付用軽量塗材</div></td><td><div>・砂壁状</div></td><td><div>・吹付け</div></td><td rowspan="2"><div></div></td><td><div>・適用する</div><div>・適用しない</div></td></tr><tr><td><div>・こて塗用軽量塗材</div></td><td><div>・平たん状</div></td><td><div>・こて塗り</div></td><td><div>・適用する</div><div>・適用しない</div></td></tr></table> <div>複合仕上げ塗材の上塗材</div> <div>樹脂<div><div>・</div>アクリル系</div><div>・シリカ系</div><div>・ポリウレタン系</div><div>・アクリルシリコン系</div><div>・ふっ素系</div></div> <div>外観<div>・つやあり</div><div><div>・</div>つやなし</div><div>・メタリック</div></div> <div>溶媒<div><div>・</div>溶剤系</div><div>・弱溶剤系</div><div>・水系</div></div> <div>6 マスチック塗材塗り (建標 15. 7. 2) (表 15. 7. 1)</div> <div>種別<div>・ A 種</div><div>・ B 種</div></div> <div>7 しっくい塗り (建標 15. 10. 1～2) (建標 15. 10. 4) (表 15. 10. 5)</div> <div>下地の種類()</div> <div>色しっくい<div>・適用する</div><div>・適用しない</div></div> <div>既調合しっくいの上塗り仕上げ工法 (・なで切り仕上げ<div>・パターン仕上げ</div>)</div> <div>8 こまい壁塗り (建標 15. 11. 2) (建標 15. 11. 4) (建標 15. 11. 7) (建標 15. 11. 8)</div> <div>材料</div> <div>色土の種類<div>・土物仕上げ()</div><div>・大津仕上げ()</div></div> <div>色砂の種類<div>・天然砂と岩石の砕砂</div><div>・人口的に着色・製造したもの</div></div> <div>塗厚<div>・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合</div><div>・図示による</div><div>・</div></div> <div>土物仕上げの工法</div> <div><div>・土物仕上げ工法</div><div><div>・水こね土物 1 工法</div><div>・水こね土物 2 工法</div></div><div><div>・のりさし土物工法</div><div>・のりこね土物工法</div></div><div>・砂壁仕上げ工法</div><div>・切返し仕上げ工法</div></div> <div>大津仕上げの工法</div> <div><div>・普通大津仕上げ工法</div><div>・大津みがき工法</div></div> <div>ちりじゃくり<div>・図示による</div><div>・</div></div> <div>9 ロックウール吹付け (建標 15. 12. 3)</div> <div>仕上げ吹付け厚さ (mm)</div> <div><div>・図示による</div><div>・</div></div>	呼び名	仕上の形状	工法	耐候性	防火材料	<div>・複層塗材 CE</div> <div>・複層塗材 RE</div> <div>・複層塗材 Si</div> <div>・複層塗材 E</div>	<div>・凸部処理</div> <div>・凹凸状</div> <div>・ゆず肌状</div>	<div>・吹付け</div> <div>・ローター塗り</div>	<div>・候補形 3 種</div> <div>・</div>	<div>・適用する</div> <div>・適用しない</div>	<div>・可とう形複層塗材 CE</div>	<div>・凸部処理</div> <div>・凹凸状</div> <div>・ゆず肌状</div>	<div>・吹付け</div> <div>・ローター塗り</div>	<div>・候補形 3 種</div> <div>・</div>	<div>・適用する</div> <div>・適用しない</div>	<div>・防水形複層塗材 CE</div> <div>・防水形複層塗材 RE</div> <div>・防水形複層塗材 E</div>	<div>・凸部処理</div> <div>・凹凸状</div> <div>・ゆず肌状</div>	<div>・吹付け</div> <div>・ローター塗り</div>	<div>・候補形 3 種</div> <div>・</div>	<div>・適用する</div> <div>・適用しない</div>	<div>・吹付用軽量塗材</div>	<div>・砂壁状</div>	<div>・吹付け</div>	<div></div>	<div>・適用する</div> <div>・適用しない</div>	<div>・こて塗用軽量塗材</div>	<div>・平たん状</div>	<div>・こて塗り</div>	<div>・適用する</div> <div>・適用しない</div>
呼び名	仕上の形状	工法	耐候性	防火材料																										
<div>・複層塗材 CE</div> <div>・複層塗材 RE</div> <div>・複層塗材 Si</div> <div>・複層塗材 E</div>	<div>・凸部処理</div> <div>・凹凸状</div> <div>・ゆず肌状</div>	<div>・吹付け</div> <div>・ローター塗り</div>	<div>・候補形 3 種</div> <div>・</div>	<div>・適用する</div> <div>・適用しない</div>																										
<div>・可とう形複層塗材 CE</div>	<div>・凸部処理</div> <div>・凹凸状</div> <div>・ゆず肌状</div>	<div>・吹付け</div> <div>・ローター塗り</div>	<div>・候補形 3 種</div> <div>・</div>	<div>・適用する</div> <div>・適用しない</div>																										
<div>・防水形複層塗材 CE</div> <div>・防水形複層塗材 RE</div> <div>・防水形複層塗材 E</div>	<div>・凸部処理</div> <div>・凹凸状</div> <div>・ゆず肌状</div>	<div>・吹付け</div> <div>・ローター塗り</div>	<div>・候補形 3 種</div> <div>・</div>	<div>・適用する</div> <div>・適用しない</div>																										
<div>・吹付用軽量塗材</div>	<div>・砂壁状</div>	<div>・吹付け</div>	<div></div>	<div>・適用する</div> <div>・適用しない</div>																										
<div>・こて塗用軽量塗材</div>	<div>・平たん状</div>	<div>・こて塗り</div>		<div>・適用する</div> <div>・適用しない</div>																										

17 建具工事

1 防火戸 (建標 16. 1. 3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建具表による ・ 防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸について連動させる装置等 (・ 建具表による)
2 見本の製作等 (建標 16. 1. 4)	建具見本の製作 ・ 行う (建具符号 :) ・ 行わない 特殊な建具の仮組 ・ 行う (建具符号 :) ・ 行わない
3 防犯建物部品 (建標 16. 1. 6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適用する (適用箇所 ・ 建具表による) ・ 適用しない
4 アルミニウム製建具 (建標 16. 2. 2) (建標 16. 2. 4～5) (表 14. 2. 1)	性能値等 (建具符号、枠の見込み寸法は建具表による) 耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級 (・ 建具表による ・ 図示による) 外部に面する建具の種類 (・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ E 種) ・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級 () ・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級 () 表面処理 外部に面する建具 種別 (・ BA-1 種 ・ BB-2 種) 着色 (・ 標準色 ・ 特注色) 屋内の建具 種別 (・ BC-1 種 ・ BC-2 種) 着色 (・ 標準色 ・ 特注色) 結露水の処理方法 ・ 図示による 水切り板、ぜん板 ・ 図示による 木下地の内付け建具 ・ 適用する (建具の製造所の仕様) ・ 適用しない
5 樹脂製建具 (建標 16. 2. 5) (建標 16. 3. 2) (建標 16. 3. 4～5)	性能値等 (建具符号、枠の見込み寸法は建具表による) 耐風圧性等級、気密 性等級、水密性等級 (・ 建具表による ・ 図示による) 外部に面する建具の種類 (・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ E 種) ・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級 (・ T-1 種 ・ T-2 種) ・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級 () 外部に面する建具の日射熱取得性の等級 () 表面色 (・ 標準色 ・ 特注色) 水切り板、ぜん板 ・ 図示による 木下地の内付け建具 ・ 適用する (建具の製造所の仕様) ・ 適用しない
6 鋼製建具 (建標 16. 4. 2～3) (建標 16. 4. 6)	性能値等 (建具符号は建具表による) 簡易気密型ドアセットの気密性等級 (A-3)、水密性等級 (W-1) (・ 適用する ・ 適用しない) 外部に面する建具の耐風圧性 (・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 (枠の見込み寸法は建具表による)) ・ 耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級 () ・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級 () ・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級 () 標準型鋼製建具の有効内法寸法 ・ 適用する (建具符号、形式及び寸法は建具表による)
7 鋼製軽量建具 (建標 16. 5. 2～3) (建標 16. 5. 6)	性能値等 (建具符号は建具表による) 簡易気密型ドアセットの気密性等級 (A-3) (・ 適用する ・ 適用しない) ・ 耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級 () ・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級 () ・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級 () 鋼板の種類 ・ 亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板 標準型鋼製軽量建具の有効内法寸法 ・ 適用する (建具符号、形式及び寸法は建具表による)
8 ステンレス製建具 (建標 16. 6. 2)	性能値等 (建具符号は建具表による) 耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級 (・ 建具表による ・ 図示による) 外部に面する建具の耐風圧性 (・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 (枠の見込み寸法は建具表による)) ・ 耐痕ドアとする場合 面内変形追随性の等級 ()

9 木製建具

(建標 16. 7. 2～4)

(表 16. 7. 2～3)

(表 16. 7. 7～8)

(表 16. 7. 10)

- ・防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級()
- ・断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級()

枠、くつずりの材料 (・建具表による ・図示による)

- ・フラッシュ戸
- 表面材の合板の種類

合板の種類	表面材の品質等	備考
・普通合板		
・天然木化粧合板		
・特殊加工化粧合板		
・ミディアムデンシティ ファイバーボード (MDF)	表面の状態による区分() 曲げ強さによる区分() 接着剤による区分() 難燃性による区分() ・()	

引き戸の定規縁

- ・召し合せかまちをいんろう付きとする
- ・かまち戸 (かまち樹種: 、鏡板樹種:)
- ・ふすま
 - 種別、工法 (・ I 型 ・ II 型)
 - 上張り (・ 鳥の子 ・ 新鳥の子又はビニル紙程度)
 - 縁仕上 (・ 壁り縁 ・ 生地縁(素地) ・ 生地縁(ウレタンクリヤー塗装))
- ・戸ぶすま 表面材の種類、品質等()

10 建具用金物

(建標 16. 8. 2～3)

握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセント等の取付および取付位置

- ・建具表による ・

11 鍵

(建標 16. 8. 4)

- マスターキー ☐ 制作する ・制作しない
- (既存校舎と調整の上製作すること)

12 自動ドア開閉装置

(建標 16. 9. 2)

(表 16. 9. 1～3)

戸の開閉方式 (・図示 ・)

自動ドア開閉装置の性能

- 防錆の適用 (・適用する ・適用しない)

引き戸用検出装置の種類

- 種類
 - ・光線(反射)センサー ・熱線センサー ・音波センサー
 - ・光電センサー ・電波センサー ・押しボタンスイッチ
 - ・タッチスイッチ(・無線式タッチスイッチ ・光電式タッチスイッチ)
 - ・車椅子使用者便房スイッチ(・大形(開・閉)押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ)

凍結防止措置 (・適用する ・適用しない)

13 重量シャッター

(建標 16. 11. 2～3)

- シャッターの種類
 - ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター
 - ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター

外壁開口部に設ける重量シャッター 耐風圧強度()pa

安全装置の設置箇所

- 急降下制御装置又は急降下停止装置の設置箇所(・図示 ・)
- 障害物感知装置の設置箇所 (・図示 ・)
- 危害防止機構の設置箇所 (・図示 ・)

管理用シャッターのシャッターケース (・設ける ・設けない)

スラット及びシャッターケース用鋼板

- 鋼板の種類
 - ・JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
 - ・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)

14 軽量シャッター

(建標 16. 12. 2)

開閉形式 (☐ 手動式 ・電動式(手動併用))

耐風圧強度()pa

(建標 16. 12. 4)
(表 16. 12. 4)

電動式の場合の安全装置 障害物感知装置の設置箇所 (・図示
スラットの種類
・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形

15 オーバーヘッドドア
(建標 16. 13. 2～3)

風圧力区分 (Pa)	収納形式による区分
・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50	・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ パーチカル形

電動式の場合の障害物感知装置の設置箇所 (・図示

16 ガラス
(建標 16. 14. 2～3)
(図 16. 14. 1)

適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組合せは建具表及び図示による

- ・フロート板ガラスの品質及び厚さの呼びによる種類
・図示(・建具表
- ・型板ガラスの厚さによる種類
・図示(・建具表
- ・網入板ガラス及び線入板ガラス
網又は線の形状、板の表面の状態、厚さの呼びによる種類
・図示(・建具表
- ・合わせガラス
材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、合わせガラスの合計厚さ、特性による種類
・図示(・建具表

強化ガラス

形状による種類、材料板 ガラスの種 類による名称(呼び厚を含む)、特性による種類

- ・図示(・建具表
- ・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類、性能による種類
・図示(・建具表
- ・複層ガラス
材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、複層ガラスの厚さ、断熱性による区分、
日射取得性及び日射遮蔽性による区分、乾燥気体の種類
・図示(・建具表
- ・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類、厚さによる種類、日射熱遮へい性及び耐久性による区分
・図示(・建具表
- ・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類厚さによる種類
・図示(・建具表

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め具
アルミニウム製	・シーリング材 ・建築用ガスケット
樹脂製	・建築用ガスケット ・グレイジングビード
鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材
ステンレス製	・シーリング材

17 ガラスブロック積み
(建標 16. 14. 5)

表面 形状	呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調	
			クリア	乳白
・ 正方形	・ 160×160	95	・	・
	・ 200×200	95	・	・
・ 長方形	・		・	・
	・		・	・

壁用金属枠及び補強材

- ・設ける(形状
- ・図示

	<p>・設けない</p> <p>化粧目地モルタルの色()</p> <p>シーリング材の種類 ()</p> <p>金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製</p> <p>寸法 ・図示による ・</p> <p>形状 ・図示による ・</p> <p>工法</p> <p>建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法</p> <p>・図示による ・</p> <p>木下地の場合の壁用金属枠の取付け間隔()</p>
--	---

18 カーテンウォール工事

19 塗装工事

<p>1 塗装工事 (建標 18)</p>	<p>・公共建築工事標準仕様書による</p>								
<p>2 素地ごしらえ (建標 18.2.2～7) (表 18.2.1～7)</p>	<table> <tr> <th>下地</th><th>種別</th></tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面</td><td> <input type="checkbox"/> A種 ・ B種 </td></tr> </table>	下地	種別	亜鉛めっき鋼面	<input type="checkbox"/> A種 ・ B種				
下地	種別								
亜鉛めっき鋼面	<input type="checkbox"/> A種 ・ B種								
<p>3 耐候性塗料塗り (建標 18.7.1～4) (表 18.7.1～3)</p>	<table> <tr> <th>下地</th><th>上塗り塗料等級</th></tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面</td><td> <input type="checkbox"/> 1級 ・ 2級 ・ 3級 </td></tr> <tr> <td>鉄鋼面</td><td> <input type="checkbox"/> 1級 ・ 2級 ・ 3級 </td></tr> <tr> <td>コンクリート面及び 押出成形セメント板面</td><td> <input type="checkbox"/> 1級 ・ 2級 ・ 3級 </td></tr> </table>	下地	上塗り塗料等級	亜鉛めっき鋼面	<input type="checkbox"/> 1級 ・ 2級 ・ 3級	鉄鋼面	<input type="checkbox"/> 1級 ・ 2級 ・ 3級	コンクリート面及び 押出成形セメント板面	<input type="checkbox"/> 1級 ・ 2級 ・ 3級
下地	上塗り塗料等級								
亜鉛めっき鋼面	<input type="checkbox"/> 1級 ・ 2級 ・ 3級								
鉄鋼面	<input type="checkbox"/> 1級 ・ 2級 ・ 3級								
コンクリート面及び 押出成形セメント板面	<input type="checkbox"/> 1級 ・ 2級 ・ 3級								
<p>4 クリヤラッカー塗り (表 18.5.1)</p>	<p>種別がA種の場合における着色に用いる塗料の種類</p> <p>・</p>								
<p>5 ウレタン樹脂ワニス 塗り (表 18.10.1)</p>	<p>着色 <input type="checkbox"/> 無 ・ 有 (・ 油性顔料着色剤 ・ 溶剤系顔料着色剤)</p>								
<p>6 ステイン塗り (表 18.11.2)</p>	<p>オイルステイン塗りの仕様</p> <p>・ 図示による ・</p>								

20 内装工事

<div>1</div> <div>接着剤等</div> <div>(建標 19. 2. 2～3)</div> <div>(表 19. 2. 2)</div>	<div>下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合のゴム床タイル用接着剤の主成分による区分</div> <div><div><div>・</div><div>図示による</div></div><div><div>・</div><div>表 19. 2. 1 による</div></div></div> <div><div>下地の工法</div><div><div>・</div><div>図示による</div></div><div><div>・</div></div></div>						
<div>2</div> <div>ビニル床シート</div> <div>(建標 19. 2. 2)</div>	<table><tr><th>色柄</th><th>備考</th></tr><tr><td><div><div>・</div><div>無地</div></div><div><div>・</div><div>マーブル柄</div></div></td><td><div><div>・</div><div>巻上げ (H=100mm)</div></div></td></tr></table>	色柄	備考	<div><div>・</div><div>無地</div></div> <div><div>・</div><div>マーブル柄</div></div>	<div><div>・</div><div>巻上げ (H=100mm)</div></div>		
色柄	備考						
<div><div>・</div><div>無地</div></div> <div><div>・</div><div>マーブル柄</div></div>	<div><div>・</div><div>巻上げ (H=100mm)</div></div>						
<div>3</div> <div>ビニル床タイル</div> <div>(建標 19. 2. 2)</div>	<table><tr><th>色 柄</th><th>寸法 (mm)</th><th>備 考</th></tr><tr><td><div><div>・</div><div>無地</div></div><div><div>・</div></div></td><td><div><div>・</div><div>300×300</div></div><div><div>・</div><div>450×450</div></div><div><div>・</div><div>500×500</div></div></td><td></td></tr></table>	色 柄	寸法 (mm)	備 考	<div><div>・</div><div>無地</div></div> <div><div>・</div></div>	<div><div>・</div><div>300×300</div></div> <div><div>・</div><div>450×450</div></div> <div><div>・</div><div>500×500</div></div>	
色 柄	寸法 (mm)	備 考					
<div><div>・</div><div>無地</div></div> <div><div>・</div></div>	<div><div>・</div><div>300×300</div></div> <div><div>・</div><div>450×450</div></div> <div><div>・</div><div>500×500</div></div>						

4 特殊機能床
(建標 19. 2. 2)

シート・タイルの種別	種 類	性 能	厚さ、寸法、形状(mm)
・帯電防止床シート			厚さ：
・帯電防止床タイル			寸法： 厚さ：
・視覚障害者用床タイル		－	形状：
・耐動荷重性床シート		－	厚さ：
<input type="checkbox"/> 防滑性床シート	耐候性防滑シート	防滑 遮熱	厚さ：3.0
・防滑性床タイル		－	寸法： 厚さ：

5 ビニル幅木
(建標 19. 2. 2)

材質の種類 ☐ 軟質 ・硬質
高さ(mm) ・60mm ☐ 100mm

6 ゴム床タイル
(建標 19. 2. 2)

種類 ・単層品 ・積層品
色柄 ()
厚さ(mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0
寸法(mm) ()

7 カーペット敷き
(建標 19. 3. 2～3)
(表 19. 3. 1～2)

・織じゅうたん

織り方	パイル形状	帯電性	備考
・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	・カットパイル ・ループパイル ・カット・ループ併用	・適用する ・適用しない	

パイル系の種別 (・ A種 ・ B種 ・ C種)

見切り、押え金物

- ・適用する 材質、形状等 (・ 図示 ・)
- ・適用しない

・タフテッドカーペット

パイルの形状	パイル長 (mm)	工 法	帯電性	備考
・カットパイル	・	・グリッパー工法 ・全面接着工法	・適用する ・適用しない	
・ループパイル	・			
・カット、ループ併用	・			
・	・			

見切り、押え金物

- ・適用する(材質、形状等 ・ 図示 ・)
- ・適用しない

・タイルカーペット

見切り、押え金物

- ・適用する(材質、形状等 ・ 図示 ・)
- ・適用しない

8 合成樹脂塗床
(建標 19. 4. 2)

種類	工法	仕上の種類	施工箇所
<input type="checkbox"/> 厚膜型塗床材 (アクリル樹脂系塗床材)			機械室
・厚膜型塗床材 (エポキシ樹脂塗床材)	・薄膜流しのベ工法 ・厚膜流しのベ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ	

9 フリーリング張り
(建標 19. 5. 2～5)

	・樹脂モルタル工法		
・薄膜型塗床材 (エポキシ樹脂塗床材)			
・			

・単層フローリング

種類	工法	樹種	厚さ、幅及び長さ
・フローリングボード1等	・釘留め工法 (根太張り)	・	
	・釘留め工法 (直張り)	・	
	・接着工法	・	
・フローリングブロック1等	・接着工法	・	・

・複合フローリング

種類	工法	樹種	種別(厚さ、幅及び長さ)
・複合フローリング (天然木化粧)	・釘留め工法 (根太張り)	・	・A種 ・B種 ・C種
	・釘留め工法 (直張り)	・	・A種 ・B種 ・C種
	・接着工法	・	・A種 ・B種 ・C種

10 畳敷き
(建標 19. 6. 2)
(表 19. 6. 1)

種別

・A種 ・B種 ・C種 ・D種(畳床 ・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N)

・衝撃緩和型畳 畳表(JIS A 5902) (・C1 ・C2)

11 せっこうボード張り
(建標 19. 7. 2～3)
(表 19. 7. 1)

せっこうボード

規格名称	種類	厚さ(mm)等
木質系 セメント板	・硬質木毛セメント板	・15 ・20 ・25 ・
	・中質木毛セメント板	・15 ・20 ・25 ・
	・普通木毛セメント板	・15 ・20 ・25 ・
	・硬質木片セメント板	・12 ・15 ・18 ・21 ・
	・普通木片セメント板	・30 ・
繊維強化セメント板	☐けい酸カルシウム板	タイプ2(無石綿) ☐6 ・8
火山性ガラス質複層板 (VS ボード)	・火山性ガラス質複層板	・ ・
繊維板	・ミディアムデンシテファイバ ーボード(MDF)	・3 ・7 ・9 ・12 ・
	・ハードボード(素地)	・無研磨板 (・スタンダード ・テンパード) ・研磨板 (・スタンダード ・テンパード) ・2.5 ・3.5 ・5 ・7
	・ハードボード(化粧)	・内装用 ・外装用 ・2.5 ・3.5 ・5 ・7
	・インシュレーションボード	A 級 (・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18
パーティクルボード	・単板張りパーティクルボード	・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18

	・化粧パーティクルボード	・単板オーバーレイ ・プラスチックオーバーレイ ・塗装 ・10 ・12
吸音材料	・ロックウール化粧吸音板	・12.5(不燃) ・15(不燃) ・
	・ロックウール吸音ボード1号	・25 ・
	・グラスウール吸音ボード32K	・25(ガラスクロス包) ・
せっこうボード製品	・せっこうボード	・12.5(不燃) ・15(不燃) ・
	・不燃積層せっこうボード	・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラバーチン模様) ・9.5(不燃)
	<input type="checkbox"/> シージングせっこうボード	<input type="checkbox"/> 12.5(不燃) ・
	・強化せっこうボード	・12.5(不燃) ・15(不燃) ・
	・せっこうラスボード	・9.5 ・
	・化粧せっこうボード(木目)	模様(・柾目 ・板目) 専用下地材有り
	・化粧せっこうボード(トラバーチン模様)	・9.5(準不燃)

ボード表面への化粧張仕上の有無

・有り(種類:) ・

天井のボードの重ね張りの張り付け方法(ロックウール吸音板を除く)

()

せっこうボードの目地工法

☐図示(仕上げ表)による ・

せっこうボードのエッジの種類(突付け工法、目透し工法の場合)

☐図示による ・

12 壁紙張り
(建標 19.8.2)

施工箇所	壁紙の種類						防火性能	備考
	紙	繊維	プラスチック	無機質	塩化ビニル	その他	防火性能	備考
	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・		

13 断熱材
(建標 19.9.3～4)

・断熱打込み工法

種類		厚さ(mm)	施工箇所
断熱材名	種類(記号)		
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		・	
<input type="checkbox"/> 押出法ポリスチレンフォーム断熱(スキン層なし)	3種b 1種b	・35 ・50	陸屋根 1階床下
・硬質ウレタンフォーム断熱材		・	
・フェノールフォーム断熱材		・	

・断熱材現場発泡工法

断熱材の種類 ・A種1 ・A種1H
吹付け厚さ(mm) ・25 ・30 ・
施工箇所 ・図示による ・

2 1 ユニット及びその他の工事

1 フリーアクセスフロア (建標 20. 2. 2)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>構造</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>高さ (mm)</th> <th>耐震性能</th> <th>所定荷重</th> <th>表面仕上げ材</th> </tr> <tr> <td></td> <td>・支柱調整式 ・置敷式</td> <td>・500×500</td> <td>・</td> <td>・1. 0G ・0. 6G</td> <td>・3, 000N ・5, 000N</td> <td>・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・</td> </tr> </table>	施工箇所	構造	寸法 (mm)	高さ (mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上げ材		・支柱調整式 ・置敷式	・500×500	・	・1. 0G ・0. 6G	・3, 000N ・5, 000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・							
	施工箇所	構造	寸法 (mm)	高さ (mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上げ材															
	・支柱調整式 ・置敷式	・500×500	・	・1. 0G ・0. 6G	・3, 000N ・5, 000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット ・																
帯電防止性能 ・U 値(クラス 1) ・U 値(クラス 2) 漏えい抵抗 ・R \geq 1×10 Ω 6 ・																						
2 可動間仕切 (建標 20. 2. 3)	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">構造形式による種類</th> <th colspan="2">構成基材の種類</th> <th rowspan="2">パネル表面仕上げ</th> <th rowspan="2">遮音性 (dB/500Hz)</th> </tr> <tr> <th>スタッド</th> <th>パネル</th> </tr> <tr> <td>・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式</td> <td></td> <td></td> <td>・メラミン樹脂焼付 又はアクリル樹脂焼付け ・壁紙張り</td> <td>・0 ・12 ・20 ・28 ・36</td> </tr> </table>	構造形式による種類	構成基材の種類		パネル表面仕上げ	遮音性 (dB/500Hz)	スタッド	パネル	・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式			・メラミン樹脂焼付 又はアクリル樹脂焼付け ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36									
	構造形式による種類		構成基材の種類				パネル表面仕上げ	遮音性 (dB/500Hz)														
スタッド		パネル																				
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式			・メラミン樹脂焼付 又はアクリル樹脂焼付け ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36																		
パネル内に取付ける建具 ・あり 寸法及び形状 (・図示 ・) ・なし																						
3 移動間仕切 (建標 20. 2. 4)	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">操作方法による種類</th> <th rowspan="2">圧接装置の操作方法</th> <th colspan="2">パネル表面材</th> <th rowspan="2">遮音性 (dB/500Hz)</th> </tr> <tr> <th>材質</th> <th>仕上げ</th> </tr> <tr> <td>・手動式 ・電動式 ・部分電動式</td> <td>・プッシュ式 ・ハンドル式 ・</td> <td>・鋼板 ・</td> <td>・焼付塗装 ・壁紙張り ・</td> <td>・36 未満 ・36 以上</td> </tr> </table>	操作方法による種類	圧接装置の操作方法	パネル表面材		遮音性 (dB/500Hz)	材質	仕上げ	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・	・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36 未満 ・36 以上									
	操作方法による種類			圧接装置の操作方法	パネル表面材		遮音性 (dB/500Hz)															
材質		仕上げ																				
・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・	・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36 未満 ・36 以上																		
あと施工アンカー ・使用する(種類: 、材質: 、寸法:) ・使用しない																						
4 トイレブース (建標 20. 2. 5)	<table border="1"> <tr> <th>パネル表面材の材質</th> <th>笠木</th> <th>脚部の種類</th> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/> メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・ </td> <td> <input type="checkbox"/> ステンレス製 </td> <td> <input type="checkbox"/> 幅木タイプ ・足金物タイプ </td> </tr> </table>	パネル表面材の材質	笠木	脚部の種類	<input type="checkbox"/> メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・	<input type="checkbox"/> ステンレス製	<input type="checkbox"/> 幅木タイプ ・足金物タイプ															
パネル表面材の材質	笠木	脚部の種類																				
<input type="checkbox"/> メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・	<input type="checkbox"/> ステンレス製	<input type="checkbox"/> 幅木タイプ ・足金物タイプ																				
5 手すり (建標 20. 2. 6)	材料の種類 <input type="checkbox"/> 図示 仕上げ <input type="checkbox"/> 図示																					
6 階段滑止め (建標 20. 2. 7)	<table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>形状</th> <th>寸法 (mm)</th> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/> ステンレス材(SUS304) ・黄銅製押出型材 ・アルミニウム製押出型材 </td> <td> ・ひも材 <input type="checkbox"/> タイヤ型 </td> <td> <input type="checkbox"/> 35 ・ </td> </tr> </table>	材種	形状	寸法 (mm)	<input type="checkbox"/> ステンレス材(SUS304) ・黄銅製押出型材 ・アルミニウム製押出型材	・ひも材 <input type="checkbox"/> タイヤ型	<input type="checkbox"/> 35 ・															
材種	形状	寸法 (mm)																				
<input type="checkbox"/> ステンレス材(SUS304) ・黄銅製押出型材 ・アルミニウム製押出型材	・ひも材 <input type="checkbox"/> タイヤ型	<input type="checkbox"/> 35 ・																				
7 黒板及びホワイトボード (建標 20. 2. 9)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">種 類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>色 彩</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・黒板</td> <td>・焼付け(鋼製)</td> <td></td> <td>・緑 ・黒</td> <td>・平面 ・曲面 ・スクリーン付引分</td> </tr> <tr> <td>・焼付け(ほうろう)</td> <td></td> <td>・緑 ・黒</td> <td>・平面 ・曲面 ・スクリーン付引分</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ホワイトボード</td> <td rowspan="2">・ほうろう</td> <td></td> <td rowspan="2">・白</td> <td>・平面 ・曲面 ・スクリーン付引分</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種 類		寸法 (mm)	色 彩	備 考	・黒板	・焼付け(鋼製)		・緑 ・黒	・平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	・焼付け(ほうろう)		・緑 ・黒	・平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	・ホワイトボード	・ほうろう		・白	・平面 ・曲面 ・スクリーン付引分		
	種 類		寸法 (mm)	色 彩	備 考																	
・黒板	・焼付け(鋼製)		・緑 ・黒	・平面 ・曲面 ・スクリーン付引分																		
	・焼付け(ほうろう)		・緑 ・黒	・平面 ・曲面 ・スクリーン付引分																		
・ホワイトボード	・ほうろう		・白	・平面 ・曲面 ・スクリーン付引分																		

<div>8 鏡</div> <div>(建標 20. 2. 10)</div>	<div>取付箇所 (<input type="checkbox"/> 図示 ・)</div> <div>寸法 (mm) (<input type="checkbox"/> 図示 ・)</div>																					
<div>9 表示</div> <div>(建標 20. 2. 11)</div>	<div>・ 衝突防止表示</div> <div> 形状、寸法 (<input type="checkbox"/> 30φ ・)</div> <div> 材質 (<input type="checkbox"/> ステンレス材 ・)</div> <div>・ 非常用侵入口等の表示等 (<input type="checkbox"/> 消防法に適合する市販品 ・)</div> <div>室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状寸法材質色、書体、印刷等の種別、取付け形式</div> <div><input type="checkbox"/> 図示による ・)</div> <div>法令に基づく表示 案内用図記号については JIS Z 8210 による</div> <div>また、書面または図面により監督職員の承諾を受けること</div>																					
<div>10 煙突用成形ライニング</div> <div>(建標 20. 2. 13)</div>	<div>適用安全使用温度 ・ °C</div> <div>工法 ()</div>																					
<div>11 ブラインド</div> <div>(建標 20. 2. 14)</div>	<div>・ 横形ブラインド</div> <div> 幅、高さ (<input type="checkbox"/> 図示 ・)</div> <div>・ 縦形ブラインド</div> <div> 幅、高さ (<input type="checkbox"/> 図示 ・)</div> <div> 開閉方式 (<input type="checkbox"/> 片開き <input type="checkbox"/> 両開き)</div> <div> スラットの材質 ・ 焼付け塗装仕上げのアルミスラット</div> <div> ・ 消防法で定める防災性能の表示がある特殊樹脂加エクロスラット</div> <div> スラットの幅 () mm</div>																					
<div>12 ロールスクリーン</div> <div>(建標 20. 2. 15)</div>	<table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>品質</th> <th>操作方式</th> <th>幅、高さ</th> <th>取付箇所</th> </tr> <tr> <td>・ ポリエステル ・</td> <td>・</td> <td>・ 電動式 ・ スプリング式 ・ チェーン式</td> <td>・ 図示 ・</td> <td>・ 図示 ・</td> </tr> </table>	材種	品質	操作方式	幅、高さ	取付箇所	・ ポリエステル ・	・	・ 電動式 ・ スプリング式 ・ チェーン式	・ 図示 ・	・ 図示 ・											
材種	品質	操作方式	幅、高さ	取付箇所																		
・ ポリエステル ・	・	・ 電動式 ・ スプリング式 ・ チェーン式	・ 図示 ・	・ 図示 ・																		
<div>13 カーテン</div> <div>(建標 20. 2. 16)</div> <div>(表 20. 2. 1)</div>	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">形式</th> <th>開閉操作方式</th> <th>ひだの種類</th> <th>生地 of 修理、品質、特殊加工等</th> <th>取付箇所</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ シングル ・ ダブル</td> <td>・ 片引き ・ 引分け</td> <td>・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動</td> <td>・ つまみひだ (三つ山ひだ、二つ山ひだ) ・ 箱ひだ、片ひだ ・ プレーンひだ</td> <td>・ ・ ・</td> <td>・ 図示 ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(暗幕)</td> </tr> </table>	形式		開閉操作方式	ひだの種類	生地 of 修理、品質、特殊加工等	取付箇所	備考	・ シングル ・ ダブル	・ 片引き ・ 引分け	・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動	・ つまみひだ (三つ山ひだ、二つ山ひだ) ・ 箱ひだ、片ひだ ・ プレーンひだ	・ ・ ・	・ 図示 ・								(暗幕)
形式		開閉操作方式	ひだの種類	生地 of 修理、品質、特殊加工等	取付箇所	備考																
・ シングル ・ ダブル	・ 片引き ・ 引分け	・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動	・ つまみひだ (三つ山ひだ、二つ山ひだ) ・ 箱ひだ、片ひだ ・ プレーンひだ	・ ・ ・	・ 図示 ・																	
						(暗幕)																
<div>14 プレキャストコンクリート</div> <div>(建標 20. 3. 4)</div>	<div>配筋 ・ 図示による ・)</div> <div>取付け方法 ・ 図示による ・)</div>																					
<div>15 間知石及びコンクリート間知ブロック積み</div> <div>(建標 20. 4. 2～3)</div>	<table border="1"> <tr> <th>材料</th> <th>材種</th> <th>種類</th> <th>質量区分</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ 間知石</td> <td>・ 花こう岩 ・ 凝灰岩</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ コンクリート間知ブロック</td> <td>—</td> <td></td> <td>・ A ・ B</td> <td></td> </tr> </table> <div>工法</div> <div> 目塗り (<input type="checkbox"/> 図示 ・)</div> <div> 伸縮調整目地 材種 (<input type="checkbox"/> 図示 ・)</div> <div> 厚さ (<input type="checkbox"/> 図示 ・)</div>	材料	材種	種類	質量区分	備考	・ 間知石	・ 花こう岩 ・ 凝灰岩	—	—		・ コンクリート間知ブロック	—		・ A ・ B							
材料	材種	種類	質量区分	備考																		
・ 間知石	・ 花こう岩 ・ 凝灰岩	—	—																			
・ コンクリート間知ブロック	—		・ A ・ B																			

16 ブラインドボックス
及びカーテンボックス

溝幅×深さ(mm)

・90×150

・120×80

・120×150

・150×80

・図示による

材質

・集成材(仕上げ:

)

・アルミニウム製 押出し型材(市販品)

種別 (・BC-1 種 ・BC-2 種)

色合い ・標準色(

)

・特注色(

)

・鋼製(仕上げ:

)

17 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
<input type="checkbox"/> アルミニウム製 ・	・450×450 <input type="checkbox"/> 600×600 ・	<input type="checkbox"/> 一般形 ・	・屋内外用 <input type="checkbox"/> 屋内用 ・	・額縁タイプ <input type="checkbox"/> 目地タイ プ	・額縁タイプ <input type="checkbox"/> 目地タイ プ
・	・	・	・	・	・

18 床点検口

材種	寸法	形式		備考
・アルミニウム製 <input type="checkbox"/> ステンレス製 ・鋼製	・450×450 <input type="checkbox"/> 600×600 ・	・一般形 <input type="checkbox"/> 密閉形 ・	<input type="checkbox"/> 屋内外用 ・屋内用	<input type="checkbox"/> 鍵付き

19 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直方向 ・水平方向	・完全(全貫通型) ・	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

20 止水版

形式

・差込式

☐ 据置式

・壁張り式

施工箇所

☐ 図示による

・

21 エキスパンションジ
ョイント金物

材種	クリアランス	耐火性能	備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50 ・100 ・150 ・	・有り() ・無し	

外部は防水型とする

22 くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼(SUS304)製 ・	・ステンレス製(SUS304) ・硬質アルミニウム合金 ・	

23 流し台ユニット

材種	寸法(mm)			備考
	W	D	H	
・流し台	・1,200 ・1,500 ・1,800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1,200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1,200 ・900 ・600	—	—	市販品 ステンレス製 ・1 段式

形状 (・図示

・

)

24 旗竿	<table><tr><th>材質</th><th>形式</th><th>高さ (m)</th><th>操作方法</th><th>固定方法</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ アルミニウム合金製 ・</td><td>・ テーパー型 ・ 同一断面型</td><td></td><td>・ ハンドル式 ・ ロープ式</td><td>・ 埋込み式 ・ ベース式 ・ バンド式</td><td></td></tr></table>	材質	形式	高さ (m)	操作方法	固定方法	備考	・ アルミニウム合金製 ・	・ テーパー型 ・ 同一断面型		・ ハンドル式 ・ ロープ式	・ 埋込み式 ・ ベース式 ・ バンド式	
材質	形式	高さ (m)	操作方法	固定方法	備考								
・ アルミニウム合金製 ・	・ テーパー型 ・ 同一断面型		・ ハンドル式 ・ ロープ式	・ 埋込み式 ・ ベース式 ・ バンド式									
25 旗竿受金物	材種 （ ・ ステンレス製 (SUS304) ・												

2 2 排水工事

1

屋外雨水排水
(建標 21. 2. 1～2)
(表 21. 2. 1)

排水管用材料

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・ 遠心力鉄筋コンクリート	外圧管 (1 種)	・ B 形管 ・	・ 図示 ・	
<div>硬質ポリ塩化ビニル管</div>	<div>V P</div>		<div>図示</div> ・	
	・ V U		・ 図示 ・	
	・ R S－V U		・ 図示 ・	
・ 硬質ポリ塩化ビニル管継手	・ D V		・ 図示 ・	
	・ V U 継手		・ 図示 ・	

基床の厚さ及び種類

図示による

・

側塊の形状及び寸法

図示による

・

排水桝の種類

図示による

・

砂地業に用いる材料

シルト

・

山砂

・

川砂

・

砕砂

砂利地業に用いる材料

再生クラッシャラン

・

切込砂利

凍上抑制層に用いる材料

・

砂を用いる場合の粒度試験

・ 行う

・ 行わない

排水柵を現場打ちとする場合の足掛け金物

- ・幅 400mm、径 22mm のステンレス製
- ・径 22mm の防錆処理を行った鋼製
- ・径 19mm の成樹脂被覆加工を行ったもの

2 鋳鉄製ふた
(建標 21. 2. 1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	<ul style="list-style-type: none">・水封形・簡易密閉形 (パッキン方式)・密閉形 (テーパ・パッキン式)・中ふた付き密閉形 (テーパ・パッキン式)・	<ul style="list-style-type: none">・T-2 用・T-6 用・T-20 用	<ul style="list-style-type: none">・有・無	左記以外の品質等は(公式)空気調和衛生工学会 SHASE-S209 による

3 グレーチング
(建標 21. 2. 1)

材質	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	亜鉛めっき (付着量)	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ボルト固定 ・	<ul style="list-style-type: none">・溝ふた(横断用)・溝ふだ(側溝用)・柵ふた用・U 字溝用	・歩行用	・細目	<ul style="list-style-type: none">・ ()	<ul style="list-style-type: none">・凹凸形・
			<ul style="list-style-type: none">・T-2 用・T-6 用・T-14 用・T-20 用	<ul style="list-style-type: none">・普通目・細目	<ul style="list-style-type: none">・ ()	<ul style="list-style-type: none">・平形・
・ステンレス製	・受枠付き、ボルト固定 ・	<ul style="list-style-type: none">・溝ふた(横断用)・溝ふだ(側溝用)・柵ふた用・U 字溝用	・歩行用	・	—	<ul style="list-style-type: none">・凹凸形・
			<ul style="list-style-type: none">・T-2 用・T-6 用・T-14 用・T-20 用	・	—	<ul style="list-style-type: none">・平形・

4 街きよ、縁石、側溝
(建標 21. 3. 1～2)
(表 21. 3. 1)

種類	形状、寸法
<input checked="" type="checkbox"/> 縁石	<input checked="" type="checkbox"/> 図示 ・
・L 形側溝	・図示 ・
・U 形側溝	・図示 ・
・U 形側溝ふた	・図示 ・
・	・

砂地業に用いる材料 ・シルト ・山砂 ・川砂 ・砕砂

砂利地業に用いる材料 ☒再生クラッシャラン ・切込砂利 ・切込碎石

凍上抑制層に用いる材料 ・

砂を用いる場合の粒度試験 ・行う ・行わない

2 3 舗装工事

1

路床
(建標 22. 1. 3)
(建標 22. 2. 2～5)
(表 22. 2. 1)

種別	材料	厚さ (mm)
<div><div><div></div></div>盛土</div>	・ A 種 <div><div><div></div></div>B 種</div> ・ C 種 ・ D 種	・ 図示 ・
・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシャラン ・ クラッシャラン ・ 切込み砂利 ・ 砂	・ 図示 ・

透水性舗装に用いるフィルター層の厚さ（・ 図示 ・ ）

路床安定処理 ・ 適用する ・ 適用しない
安定処理の方法 ・ 置き換え工法 ・ 安定処理工法
添加材料 種類 ・ 普通ポルトランドセメント

	<div><div><div>・高炉セメントB種</div><div>・フライアッシュセメントB種</div><div>・生石灰(・特号 ・1号)</div><div>・消石灰(・特号 ・1号)</div></div><div>添加量を定めるために用いる CBR()</div></div>											
	<div>試験</div> <div><div>路床土の支持力比(CBR)試験</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 行う</div><div>・行わない</div></div></div></div> <div><div>路床締固め度の試験(現場密度)</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 行う</div><div>・行わない</div></div></div></div> <div><div>現場 CBR 試験</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 行う</div><div>・行わない</div></div></div></div>											
<div><div>2</div><div>路盤</div><div>(建標 22. 1. 3)</div><div>(建標 22. 3. 2～3)</div><div>(表 22. 3. 1)</div></div>	<div><div>路盤の厚さ</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 図示による</div><div>・</div></div></div></div> <div><div>路盤材料</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 再生クラッシャラン</div><div>・クラッシャラン</div><div>・粒度調整碎石</div></div><div><div>・再生粒度調整碎石</div><div>・クラッシャラン鉄鋼スラグ</div><div>・粒度調整鉄鋼スラグ</div></div><div><div>・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ</div></div></div></div>											
<div><div>3</div><div>アスファルト舗装</div><div>(建標 22. 1. 3)</div><div>(建標 22. 4. 2～4)</div><div>(建標 22. 4. 6)</div><div>(表 22. 4. 4)</div></div>	<div><div>アスファルト舗装の構成及び厚さ</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 図示による</div><div>・</div></div></div></div> <div><div>材料</div><div><div>アスファルト</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 再生アスファルト</div><div>(・60～80 ・80～100)</div><div>・ストレートアスファルト</div></div></div></div></div> <div><div>加熱アスファルト混合物の種類</div><table><tr><th>区分</th><th>地域</th><th>種類</th></tr><tr><td rowspan="2">表層</td><td><div><div><input type="checkbox"/> 一般地域</div></div></td><td><div><div><div><input type="checkbox"/> 密粒度アスファルト混合物(13)</div><div>・細粒度アスファルト混合物(13)</div></div></div></td></tr><tr><td><div><div>・寒冷地域</div></div></td><td><div><div><div><input type="checkbox"/> 密粒度アスファルト混合物(13F)</div></div></div></td></tr></table></div> <div><div>アスファルト混合物などの抽出試験</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 行う</div><div>・行わない</div></div></div></div>	区分	地域	種類	表層	<div><div><input type="checkbox"/> 一般地域</div></div>	<div><div><div><input type="checkbox"/> 密粒度アスファルト混合物(13)</div><div>・細粒度アスファルト混合物(13)</div></div></div>	<div><div>・寒冷地域</div></div>	<div><div><div><input type="checkbox"/> 密粒度アスファルト混合物(13F)</div></div></div>			
区分	地域	種類										
表層	<div><div><input type="checkbox"/> 一般地域</div></div>	<div><div><div><input type="checkbox"/> 密粒度アスファルト混合物(13)</div><div>・細粒度アスファルト混合物(13)</div></div></div>										
	<div><div>・寒冷地域</div></div>	<div><div><div><input type="checkbox"/> 密粒度アスファルト混合物(13F)</div></div></div>										
<div><div>4</div><div>コンクリート舗装</div><div>(建標 22. 5. 2～3)</div></div>	<table><tr><th>舗装の種類</th><th>部位</th><th>構成</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td rowspan="2">コンクリート舗装</td><td>歩行者用通路</td><td><div><div><div><input type="checkbox"/> 図示</div><div>・</div></div></div></td><td></td></tr><tr><td>車路及び駐車場</td><td><div><div><div><input type="checkbox"/> 図示</div><div>・</div></div></div></td><td><div><div><div><input type="checkbox"/> 図示</div><div>・</div></div></div></td></tr></table>	舗装の種類	部位	構成	厚さ (mm)	コンクリート舗装	歩行者用通路	<div><div><div><input type="checkbox"/> 図示</div><div>・</div></div></div>		車路及び駐車場	<div><div><div><input type="checkbox"/> 図示</div><div>・</div></div></div>	<div><div><div><input type="checkbox"/> 図示</div><div>・</div></div></div>
舗装の種類	部位	構成	厚さ (mm)									
コンクリート舗装	歩行者用通路	<div><div><div><input type="checkbox"/> 図示</div><div>・</div></div></div>										
	車路及び駐車場	<div><div><div><input type="checkbox"/> 図示</div><div>・</div></div></div>	<div><div><div><input type="checkbox"/> 図示</div><div>・</div></div></div>									
	<div><div>早強ポルトランドセメント</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 使用する</div><div>・使用しない</div></div></div></div>											
<div><div>5</div><div>カラー舗装</div><div>(建標 22. 6. 2～4)</div><div>(建標 22. 6. 6)</div><div>(表 22. 6. 1)</div></div>	<div><div>・加熱系カラー舗装</div><div><div>構成・厚さ</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 図示による</div><div>・</div></div></div></div><div><div>表層に用いる加熱系混合物の結合材</div><div><div><div><div><input type="checkbox"/> アスファルト混合物</div><div>・石油樹脂系混合物</div><div>顔料の添加量(%)</div></div></div></div><div><div>加熱系混合物に添加する材料</div><div><div><div><div><input type="checkbox"/> 着色骨材()</div><div>・自然石()</div></div></div></div><div><div>アスファルト混合物の抽出試験</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 行う</div><div>・行わない</div></div></div></div></div><div><div>・常温系カラー舗装</div><div><div>工法</div><div><div><div><input type="checkbox"/> ニート工法</div><div>・塗布工法</div></div></div><div><div>着色部の下部</div><div><div><div><input type="checkbox"/> アスファルト舗装</div><div>・コンクリート舗装</div></div></div><div><div>ニート工法及び塗布工法の配合等</div><div><div><div><input type="checkbox"/> </div></div></div></div></div></div></div></div></div>											
<div><div>6</div><div>透水性アスファルト舗装</div><div>(建標 22. 1. 3)</div><div>(建標 22. 7. 2～3)</div><div>(建標 22. 7. 6)</div></div>	<div><div>舗装の構成</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 図示による</div><div>・</div></div></div></div> <div><div>材料</div><div><div>アスファルト</div><div><div><div><div><input type="checkbox"/> 再生アスファルト</div><div>(・60～80 ・80～100)</div><div>・ストレートアスファルト</div></div></div></div></div><div><div>試験</div><div><div>開粒度アスファルト混合物等の抽出試験</div><div><div><div><input type="checkbox"/> 行う</div><div>・行わない</div></div></div></div></div></div>											

7

ブロック系舗装
(建標 22. 8. 2～4)

・コンクリート平板舗装

種類	寸法 (mm)	目地材
・普通平板 (N) ・透水性平板 (P) ・保水性平板 (M)	・ 300 角 ・	・ 砂 ・ モルタル

クッション材 (・砂 ・空練モルタル)

・インターロッキングブロック舗装

種類	部位	形状、寸法	色彩、表面加工等
・普通平板 (N) ・透水性平板 (P) ・保水性平板 (M)	車路	・ 図示	・ 標準品 ・
	歩行者用通路	・ 図示	

インターロッキングブロックの割付け (・ 図示 ・)

・舗石舗装

種類	形状、寸法	厚さ (mm)	割付け	基層 (mm)
・小舗石 (花崗岩) ・	・ 図示 ・	・ 80 ・	・ 図示 ・	・コンクリート板 ・アスファルト混合物

クッション材 (・砂 ・空練モルタル)

舗石の割付け (・ 図示 ・)

2 4
植栽工事

2 5
その他

1 他工事との取合い区分	図面に明示されていない場合は、下表による					
	分類	No.	項目	建築	電気	機械
	外壁関係	1	外壁取付の給排気用ガラリ(接続フランジ付)	○		
		2	同上用ガラリチャンバー			○
		3	給気用ガラリ(フィルター共)	○		
		4	配管・換気扇等の取付用アルミパネル取付	○		
		5	同上アルミパネルの穴明け	○		
		6	外壁取付のウェザーカバー・ベンドキャップ取付			○
		7	同上コーキング処理			○
	内装関係	1	軽量間仕切壁・天井下地の開口補強	○		
		2	補強を要するボードの開口	○		
		3	補強を要しないボードの開口		○	○
		4	不燃メラミン化粧板の開口	○		
		5	天井伏図の作成	○		
		6	天井伏図の開口部記入	○	○	○
		7	開口部の墨出し	○	○	○
		8	天井・壁・床の点検口取付	○		
		9	衛生器具類取付用の壁及び軽鉄下地補強	○		
		10	配管用ライニング	○		
		11	天井機器(天井扇、ダウンライト、スピーカー等)取付用の下地補強	○		
		12	和風大便器及び掃兼口まわりのコーキング	○		
		13	置床設置前の墨出し(置床工法の場合)	○		
	設	1	システムキッチン・流し台・吊戸棚	○		

		2	シャワーユニット(搬入・据付共)	○		
		3	流し台・ガス台の水切り	○		
		4	流し台の水栓類・排水金物			○
		5	流し台・水切りの配管器具取付用の開口及び補強	○		
		6	給食室内排水溝及びグレーチング蓋	○		
		7	厨房排気フード(SUS 製)			○
		8	レンジフード本体			○
		9	洗面カウンター(開口及び補強)	○		
		10	衛生器具取付			○
		11	衛生器具(和風大便器を除く)周りのコーキング処理			○
		12	化粧鏡取付	○		
		13	手すり取付	○		
		14	紙巻器取付			○
		15	洗濯機パン、排水金具			○
		16	洗濯機パン用嵩上げ架台	○		
		17	機器取付用基礎(内部)	○		
		18	機器取付用基礎(外部)	○	○	○
		19	配管配線用の架台基礎		○	○
		20	機器取付用のアンカーボルト取付		○	○
		21	機器設置に伴うフェンス	○		
		22	危害防止装置用電源	○		
	屋外関係	1	ルーフドレン	○		
		2	雨水排水管(排水溝まで)	○		
		3	U字溝	○		
		4	屋外排水管(汚水・雑排水・雨水)			○
		5	屋外排水柵及び蓋			○
		6	舗装改修部分の排水柵蓋取替及びレベル調整			○
		7	屋外配管工事に伴うはつり工事・土工事・舗装工事		○	○
		8	足洗場	○		
		9	屋外仮設足場	○		